

令和 8 年度

# シラバス

3 年生（理系）



国 語  
地歴公民  
数 学  
理 科  
保健体育  
英 語  
教育課程表

岐阜県立斐太高等学校

科目	論理国語		年次	3	指導クラス	3年A～G組	指導者名	
単位数	2	使用教科書	探求 論理国語 (桐原書店)		副教材・問題集等		大学入試に出た核心漢字2500+語彙1000 (尚文出版) 即戦ゼミ 入試頻出 新国語問題総演習 [四訂版] (桐原書店)	

1. 科目の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。

(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
実社会に必要な国語の知識や技術を身に付けている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

3. 学習の計画

月	指導の領域 指導時間		単元名	指導項目 (単元目標)	主な言語活動	評価の場面 ・方法	評価の 観点			教材名
	書く	読む					a	b	c	
4		4	評論Ⅰ 二項対立による比較対照に着目し、評論の読み方に習熟する。	二項対立による比較対照に着目しつつ、視覚でものを捉えるときに感覚的喜びを理解し、筆者の主張を踏まえて、まとめる。	筆者の主張を参考にしつつ、自分自身が芸術に触れる際の感性を磨くことができる場面を考え、交流する。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	オブジェとイメージ
5		4	評論Ⅰ 評論文の読み方を習熟し、主題である「人の生と死」について、自身の考えを持つ。	死を考える人間の美学や人間の生きる論理などを把握し、どう扱うべきかについて考え、人間が生きることについて、死と向き合うこととあわせて考察する。さらに自分自身が生きることについて考える。	二つの文章の主題である「人の生と死」について本文を踏まえつつ、自分自身が生きることについて考察し、意見交換をする。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	人間の領域
	2	2	<知>の深化 「人間の領域」について、主題に関連する文章を読みながら、自分の考えをまとめる。	2つの文章の共通点を理解し、まとめつつ自分の主張について根拠を持って表現する。						
6		1	中間考査				○	○		
	6		評論解析C 評論の基本的な読み方を習得する。	指示内容を的確にとらえるとともに、本文中の対比関係に注目して、論理構造や筆者の主要な見解をつかむことや効果的な表現から文脈を捉え、論理の展開や筆者の主要な見解をつかむことで正確な読解をする。	・萱野稔人「権力にまつわる『秘密』」と読み比べ、両者の主要な見解の共通点と相違点をまとめ、自身はどちらの主張に賛同するかについて説明する。	行動観察 ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	権力にまつわる「秘密」 メディアと民主化
7	2	2	評論Ⅱ 緊密な論理で構成された評論文を、部分ごとの相互関係を理解しながら丁寧に読み、論旨の流れを把握する。	本文の部分ごとの相互関係を理解しながら丁寧に読み、論旨の流れを把握し、「近代家族」や「市民社会」に対する筆者の問題意識を理解する。	本文を参考にしつつ、これからの家族のあり方について考え、発表をする。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	市民社会化する家族

	3	実社会 実用的な文章の基本的な読み方を習得する。 志望理由の書き方を身につけるとともに、読む人の心を動かす文章について考える。 同じ内容の文章でもメディアの違いによる伝え方の違いを読み取る。	志望理由の書き方や正しい文章の書き方を理解し、説得力のある志望理由を書く。また、「はやぶさ2」の活躍について、メディアの違いによる伝え方の違いを読み取る。	進学先の志望理由を書き、発表する。また、興味のある分野に関する新聞記事を図書館から見つけて、紹介する。	行動観察 ワークシート 振り返りシート	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	志望理由を書く ニュースを読む
8 9	5	「書く」 筆者の主張を早く的確に捉え、要約する。 本文を踏まえて、説得力のある小論文を書く。	知的創造には他者との対話が必要である、という筆者の主張を読み取り、知的能力を創造性に結びつけるためには、自分自身の側にも、言いたいことがある種の執念のようなものとしてなければならないという筆者の主張を理解する。	本文を踏まえつつ小論文を書き、発表するとともに、クラスメイトの小論文を添削する。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	知的創造のために 「書く」ことに挑戦—小論文を書く
	3	評論Ⅲ 評論文を早く正確に読むことを意識して読解する。	言語論における基本的な考え方への理解を深めるとともに、言語論を踏まえて、日本語や日本文化の問題について考察する。	日本語の問題について、他の文章を用いて説明する。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	言葉の〈意味〉と〈表徴〉
	1	期末考査				○ ○			
10	3	体験と思索 作者の体験を基にした随想を正確に読み取る。	「沙魚」をめぐる初老の料理人とのやりとりを描いた文章を読んで、筆者の思索の推移をたどり、心情を読み解く。また、東京大空襲を題材とした文章を読み、戦争や平和の問題について認識を深める。	戦争や平和の問題について現在でも問題になっている事柄を調べ、自身の意見を述べる。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	沙魚
	4 1	評論Ⅳ 現代社会の特徴を理解するとともに、正確な速読の力を深める。	情報技術の発展によって、多様な価値観を生み出す一方で、強力な管理社会を生み出すという筆者の見解を理解し、ポストモダン社会をどのように生きていくか自分の問題として捉える。	本文と評論コラム5を読み、ポストモダンの特徴をまとめ、自身の意見を書く。	行動観察 ワークシート 振り返りシート	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	ポストモダンと排除社会
11	3 3	評論Ⅴ 民主主義の特徴を把握し、作者の主張をまとめる。	民主主義社会の特徴について整理し、筆者の主張する対話の意味について考える。	我々が目指すべき民主主義のあり方について、自分の考えをまとめて、発表する。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	真理の探求と民主主義
	1	中間考査				○ ○			
12 1 2	5 15	特別編成授業 Ⅰ期 Ⅱ期	・今までの総復習をする。 ・入学試験に向けて、時間配分や解き方などを習熟する。 ・各大学別の過去問題や他大学の入試問題を解くことにより、多様な問題に対応する実力を伸ばす。		行動観察 課題確認	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	
指導 時数	書	読							
	30	40							
	70								

#### 4 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技術を身に付けている。
思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・年3回の定期考査（前期中間・前期期末・後期中間）
- ・毎週1回の現代文単語テスト
- ・長期休暇明けの課題考査1回（夏）および課題への取り組み状況
- ・その他不定期に行う小テスト（漢字・語句等）
- ・学習への参加状況（予習・復習・ノート）

また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

#### 5 特に強調しておきたい点（留意すべき点・担当者からのメッセージを含む。）

1・2年で学習した現代の国語・論理国語に引き続き更に読解力、想像力が必要となる評論を読み進めていきます。また、後期中間考査以降は実践演習に入りますが、それまで継続して以下の点に注意して日々の学習を進めてください。

①日々の授業を大切にすること。

現代文は他の科目とは異なり、知識を付けるものではありません。授業で扱う教材に親しみながら、筆者の主張や主題、表現に触れることが、言語能力の醸成につながります。

②予習、課題を欠かさず行うこと。

限られた時間で行われる授業だけでは、教材やその内容を完結させることは容易ではありません。予習、課題を欠かさず行うことで、やっと完結するものです。手を抜くことなく取り組みましょう。

③問題集を丁寧に解くこと。

授業で扱う文章は限られたものです。多くの文章に触れて読む訓練、書く訓練をしてください。また、模範解答にもしっかりと目を通し、問題を解くポイントを学んでください。

④毎回の現代重要語小テストに必ず合格すること。

短期間で語彙力を伸ばすことは不可能です。小テストを利用し、一年を通して語彙力を付けていきましょう。

科目			古典探究	学年・年次	3年理系
単位数	3	使用教科書	高等学校 古典探究 (数研出版)	副教材・問題集等	体系古典文法（数研出版） 必携新明説漢文（尚文出版） 即戦ゼミ入試頻出新国語問題総演習（桐原書店）

1. 科目の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めようとしている。	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典を通して先人のものの見方、感じ方、考え方と関わる中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

3. 指導及び評価計画

月	指導の領域 指導時間	単元名	指導項目 (単元目標)	主な言語活動	評価の 場面・方法	評価の観点			教材名
						a	b	c	
4	4	随筆 ・敬語の理解を深める。 ・当意即妙を理解する。 ・同じ内容の違う作品を読み比べ、共通点や相違点を理解する。	・清少納言の振舞について、説明する。 ・当意即妙について話し合う。 ・『古本説話集』と読み比べをし、違いや共通点を説明する。	登場人物の心情と作品の違いについて説明し、話し合う。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	二月つごもりごろに(枕草子) 清少納言がこと(古説話集)
	3	逸話 ・「知音」の意味を理解する。 ・正確に書き下し文にし、文章を要約する。	・伯牙が「破琴絶弦、終身不復鼓琴」としたのはなぜか、説明する。 ・周処がなぜ心を入れ替えようとしたのか考える。 ・陸雲は周処にどのような助言をしたのかまとめる	短文の要約方法と速読の方法について話し合いをする。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	知音(呂氏春秋) 三横(世説新語)
	5	日記文学 ・和歌の修辞を正確に解釈する。 ・夫婦の和歌のやりとりを通じて、それぞれの心情を理解する。	・それぞれの歌について修辞法を確認する。 ・作者と兼家との間にどのようなことが起こったのか、時間を追って整理する ・「嘆きつつ……」の歌を「例よりはひきつくるひて書きて、うつろひたる菊にさし」で贈った作者の気持ちについて話し合う。	菊を和歌に添えて送ったことの効果について、話し合い、似た事例を発表する。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	父の離京うつろひたる菊(蜻蛉日記)
5	7	日記文学 ・引き歌の効果について理解する。 ・貴族の感性について理解を深める。	・「土御門殿のありさま」のどのようなところが「いはむかたなくをかし」なのか、整理し説明する。 ・「女郎花……」と「白露は……」の二首の歌はそれぞれどのようなことを伝えようとしているのか、考える。 ・「同じ枝に……」の歌の「同じ枝」「ほととぎす」「声は変はらぬ」という表現がどういう意味を持って使われているか、考える。	この作品以外の頻出の引き歌や和歌における象徴的な意味を持つ単語を調べ、発表する。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	土御門邸の秋(紫式部日記) 薫る香に(和泉式部日記)
	5	小説 ・漢文の小説を理解する。 ・話の特徴や主題を捉え、要約する。	・本文に見られる鬼の特徴をまとめる。 ・宋定伯の知恵が読み取れる言動を整理する。 ・果令の人柄や判断した理由をまとめる。 ・本文に用いられている疑問の句法を抜き出し、それぞれの読みと意味を確認する。	漢文の小説の特徴をまとめ、交流する。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	壳鬼(搜神記) 落雷裁判(閑微草堂筆記)
6	1	前期中間考査				○	○		

	10	物語 ・古典常識について、幅広く理解する。 ・主語や目的語を補い、正確に話を理解する。 ・登場人物の心情を深く理解する。 ・和歌を正確に解釈する。	・本文中から、光源氏に対する六条御息所の思いが読み取れる箇所をあげて、その心情を説明する。 ・本文中から、六条御息所・葵の上・光源氏の従者たちの言動が描写された箇所をあげて、その内容を説明する。 ・「笹の隈にだにあらねばにや……」について、『古今和歌集』神遊びの歌の引用がどのような効果を与えているか、調べてまとめる。 ・入内した姫君を見て、紫の上と明石の君とが、どのような思いを抱いたか、整理する。 ・直接に会った紫の上と明石の君は、互いをどのように見たのか、整理する。 ・柏木の、女三の宮への思いがどのように描かれているかや、この場面での女三の宮の女房たちの行動とそのありようをまとめる。 ・「橘の小島の色は…」の歌の修辞法を説明し、この歌に込められている気持ちと、この歌を聞いた匂宮の感想とを説明する。	源氏物語を読み、テーマである「ものあはれ」について考えたこと、感じたことを交流する。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○ ○	車争い 明石の姫君 入内 柏木と女三の宮 浮舟 (源氏物語)
7	6	漢詩 ・古体詩の特徴を理解する。 ・漢詩を深く読み取る。	・漢詩に描かれている情景や心情を読み取り、優れた表現に親しむ。	印象に残った詩を挙げ、どこが印象的であるかを話し合う。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○ ○	【古体詩】 桃夭 (詩経) 飲酒 (陶淵明集)
8 ・ 9	10	史伝 ・王朝の変遷を捉える。 ・漢詩を踏まえて、内容を理解する。 ・比喻を正確に捉えて、内容を把握する。	・伯夷・叔斉の作った歌には、自分たちの運命に対するどのような気持ちが込められているか考える。 ・夏から殷、殷から周という王朝交代の経緯を調べてまとめる。 ・司馬遷は顔淵と盗跖を何の例としてあげているか説明する。 ・「天道是邪非邪」には、司馬遷のどのような気持ちが込められているのか考える。 ・藺相如が秦に着いたとき、秦王はどのような応対をしたか説明する。 ・それに対し藺相如はどのような行動で対抗しようとしたか説明する。 ・この逸話に由来する「完璧」という成語は、現在どのような意味で使われているか調べる。 ・廉頗は最初、藺相如をどのように思い、どのような態度をとったかまとめる。 ・藺相如は廉頗に対してどのような態度をとったか、理由とともにまとめる。 ・「刎頸の交わり」という成語は、現在どのような意味で使われているか調べる。	中国王朝の変遷について、本文以外の事例を調べ、交流する。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○ ○	伯夷・叔斉(『史記』伯夷列伝) 廉頗・藺相如(『史記』廉頗藺相如列伝)
	1	前期期末考査				○ ○			
10	8	歴史物語 ・和歌の修辞法を再確認する。 ・語り手の意見や判断を把握し、まとめる。 ・『栄花物語』で本文と同内容の箇所を読み、表現などの違いを読み比べる。	・「照る月を……」「白雲の……」の歌から掛詞・縁語を指摘する。 ・本文中の和歌三首は、それぞれどのような点が評価されているのか説明する。 ・本文では醍醐天皇をどのような人物として描いているのか考える。 ・本文から兼通が心の中で思っている部分を抜き出す。 ・語り手である侍の意見・判断が述べられている表現を抜き出す。 ・兼家と兼通が帝のところに参上した理由を、それぞれ説明する。	同じ出来事を語る『大鏡』と『栄花物語』との間に、内容や語り方でどのような違いがあるのか話し合う。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○ ○	貫之と躬恒 最後の除目 (大鏡)
	4	文章 ・登場人物の心情やその当時の生活を本文より読み取り、まとめる。	・蔣氏が涙を流したのはなぜか、考える。 ・村人の生活と蔣氏の生活の違いをまとめる。	柳宗元はなぜこの文章を執筆したのかについて考察し、発表する。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○ ○	捕蛇者説 (柳河東集)

11	10	文章 近世随筆 ・古文の評論文の特徴を理解する。 ・作者の主張を正確に読み取る。	・清少納言が地方に落ちぶれたことについて、筆者はなぜそうなったと考えているか、まとめる。 ・紫式部が『源氏物語』を執筆する経緯についてどのように述べているかをまとめる。 ・筆者は紫式部をどのような人物と捉えているか、まとめる。 ・「秘事といふことの大用」をどのように考えているのか説明する。 ・「弓矢の道」の話は、何をどのようにたとえているのか説明する。 ・筆者は「わが師の心」をどのように受け取っているか、まとめる。 ・筆者は「学問の道」をどのように理解し、どのように対するのがよいと考えているか、まとめる。	古典の評論文と現代の評論文の違いを考察し、交流する。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	清少納言と紫式部 (無名草子) 秘すれば花 (風姿花伝) 師の説になづまざること (玉勝間)
	1	後期中間考査				○	○		
12 1 2	30	特別編成授業 Ⅰ期 Ⅱ期	・今までの総復習をする。 ・入学試験に向けて、時間配分や解き方などを習熟する。 ・各大学別の過去問題や他大学の入試問題を解くことにより、多様な問題に対応する実力を伸ばす。		行動観察 課題確認	○	○	○	
指導 時数	読むこと								
	105								

#### 4 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。	
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにしている。</li> <li>・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。</li> <li>・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。</li> <li>・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。</li> <li>・古典などを読むことを通じて、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。</li> <li>・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。</li> <li>・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。</li> <li>・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。</li> <li>・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。</li> <li>・必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。</li> <li>・作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。</li> <li>・古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。</li> <li>・古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。</li> <li>・関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。</li> <li>・古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。</li> <li>・粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。</li> </ul>
このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回の定期考査（前期中間・前期期末・後期中間）</li> <li>・長期休暇明けの課題考査1回（夏）および課題への取り組み状況</li> <li>・毎週1回の古文単語テスト</li> </ul>	

- ・その他不定期に行う小テスト（古典文法・漢文句法等）
- ・学習への参加状況（予習・復習・ノート）

また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

#### 5 特に強調しておきたい点（留意すべき点・担当者からのメッセージを含む。）

1・2年で学習した基礎的事項は大切で、これなしに古典の世界にアプローチすることは不可能です。しかし基礎的事項を学習するだけで古典を極めることができるほど古典は底の浅いものではありません。古典が、古文であれ漢文であれ言語を用いた表現行為である以上、現代文と同様に文章として接するための読解力、そして読み取ったものを自分の言葉する表現力が必要であり、実はその読解力と表現力こそが古典で目指すものなのです。単純な知識に還元することのできない奥深い領域に古典の感動があると考えてください。

科目		地理探究		年次・コース		3年理系クラス	
単位数	3	使用教科書	地理探究 (山川出版) 新詳高等地図 (帝国書院)	副教材・問題集等	新編地理資料(とうほう) ニューコンパスノート地理(とうほう) 大学入学共通テスト実践問題集地理(駿台文庫) 共通テスト実力完成直前演習地理(ラーンス)		

1. 科目の目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とする。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して系統地理・地誌的に概念などを活用して多面的・多角的に考察したりするとともに、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したりそれらを基に議論したりすることができる。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究し解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚や我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深めることができる。

3. 学習の計画

月	単元	指導項目	予定時間	主な学習活動(指導内容)と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4	第1編 第1章自然環境 ①地形	1. 世界の地形と地形をつくる力 2. プレートの運動が地形におよぼす影響 3. 地震と火山 4. 造山運動と世界の陸地 5. 河川がつくりだす地形 6. 海岸にみられる地形 7. さまざまな環境で形成される地形	7	①地形に関わる諸事象の規則性や傾向性、人間による利用などについて理解する。 ②地形の分布や成因などに注目し、「平野の地形」などの主題を設定して多面的・多角的に考察・表現する。	行動観察 プリント	○	○	○
	②気候と生態系	1. 水の循環と利用 2. 海洋の循環 3. 大気の大循環と気候 4. 気候の地域性 5. 植生と土壌 新しい視点 自然環境と生態系	5	①気候と生態系に関わる諸事象の規則性や傾向性、気候の地域性などについて理解する。 ②大気大循環のしくみや影響などに注目し、「気候の地域性」などの主題を設定して多面的・多角的に考察し・表現する。	行動観察 プリント	○	○	○
5	③世界各地の自然と生活	1. 世界の気候区分 2. 熱帯の自然と生活 3. 乾燥帯の自然と生活 4. 温帯の自然と生活 5. 亜寒帯と寒帯の自然と生活 新しい視点 高山地域の自然と生活	5	①世界各地の自然と生活に関わる諸事象の規則性や傾向性、気候区分の方法などについて理解する。 ②気候の特徴と人々の暮らしとの関係性に注目し、「各気候帯での人々の暮らし」などの主題を設定して多面的・多角的に考察・表現する。	行動観察 プリント	○	○	○
	④日本の自然環境と防災	1. 日本の地形 2. 日本の気候 3. 日本の自然災害と防災	3	①日本の自然環境に関わる諸事象の規則性や傾向性、自然災害などについて理解する。 ②日本の自然環境と自然災害の関係などに注目し、「自然災害と防災」などの主題を設定して多面的・多角的に考察・表現する。	行動観察 プリント	○	○	○

	⑤地球環境問題	1. 環境問題に関する大観 2. 越境する汚染 3. 地球温暖化の現状 4. 地球温暖化への対策 新しい視点 環境問題への国際協力とシチズン・サイエンス	4	①地球環境問題に関わる諸事象の規則性や傾向性、持続可能な地球環境の開発のあり方などについて理解する。 ②気候や環境の変化などに注目し、「気候変動の影響」などの主題を設定して多面的・多角的に考察・表現する。	行動観察 プリント 振り返りシート 課題レポート	○	○ ○ ○ ○	○ ○
6	第2章資源と産業 ①農林水産業	1. 農業の諸条件 2. 社会の発展と農業の変化 新しい視点 都市とその周辺で営まれる農業 3. グローバル化・技術革新と農業 4. 林業 5. 水産業 6. 食料問題 日本を知る 日本の農林水産業とその課題	6	①農林水産業に関わる諸事象の規則性や傾向性、食料問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。 ②農林水産業の条件や変化などに注目し、「食料問題」などの主題を設定して多面的・多角的に考察・表現する。	行動観察 プリント	○	○ ○	○
	②資源・エネルギー	1. 社会の発展と資源の利用 2. 世界の鉱産資源 3. 世界のエネルギー資源とその課題 4. 電力の利用と変化 日本を知る 日本の資源・エネルギー問題 前期中間考査	4 1	①資源・エネルギーに関わる諸事象の規則性や傾向性、資源・エネルギー問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。 ②資源産地の分布や消費地との結びつきなどに注目し、「エネルギー資源の課題」などの主題を設定して多面的・多角的に考察・表現する。	行動観察 プリント	○	○ ○	○
7 8	③工業	1. 社会の発展と世界の工業化 2. 工業の立地 3. 工業地域の形成と変化 4. 自動車工業の特徴と日本の海外生産 5. 国際分業の進展と多国籍企業 6. 工業生産のグローバル化に伴う諸課題 新しい視点 知識集約型産業の発展 日本を知る 日本の工業 変化と課題	7	①工業に関わる諸事象の規則性や傾向性、工業生産のグローバル化に伴う諸課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。 ②工業立地や変化などに注目し、「工業生産のグローバル化」などの主題を設定して多面的・多角的に考察・表現する。	行動観察 プリント	○	○ ○	○
	④第3次産業	1. サービス経済化と社会の変化	1	①第3次産業に関わる諸事象の規則性や傾向性、サービス経済化の現状や要因、解決に向けた取組について理解する。 ②産業構造の変化に注目し、「サービス経済化」などの主題を設定して多面的・多角的に考察し・表現する。	行動観察 プリント 振り返りシート 課題レポート	○	○ ○ ○ ○	○
	第3章人・モノ・金のつながり ①交通・通信	1. 世界を結ぶ交通 2. 世界を結ぶ通信 新しい視点 交通・通信の発達と買い物行動の変化 日本を知る 日本の暮らしを支える交通とその課題	2	①交通・通信に関わる諸事象の空間的な規則性や傾向性、交通・通信に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。 ②交通・通信手段の発達や利用に関わる課題などに着目し、「交通と通信の課題」などの主題を設定して多面的・多角的に考察し・表現する。	行動観察 プリント	○	○ ○	○
9	②貿易・観光	1. 世界を結ぶ貿易 2. 世界と日本の貿易とその課題 3. 世界を結ぶ資金の流れ 4. 世界を結ぶ観光とその課題 日本を知る 日本の観光とその課題	4	①運輸・観光に関わる諸事象の空間的な規則性や傾向性、貿易・観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。 ②貿易の構造や人・物・資金の流れなどに着目し、「経済連携」や「観光の多様化」などの主題を設定して多面的・多角的に考察・表現する。	行動観察 プリント 振り返りシート 課題レポート	○	○ ○ ○ ○	○
	第4章人口、村落・都市 ①人口	1. 人口の推移と分布 2. 人口構成と人口転換 3. 人口移動 4. 人口増加地域、減少地域の人口問題 日本を知る 日本の人口問題	4	①運輸・観光に関わる諸事象の空間的な規則性や傾向性、貿易・観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。 ②貿易の構造や人・物・資金の流れなどに着目し、「経済連携」や「観光の多様化」などの主題を設定して多面的・多角的に考察・表現する。	行動観察 プリント	○	○ ○	○
	②村落・都市	1. 集落の成り立ちと機能 2. 都市の成り立ちと機能 新しい視点 都市の	3	①村落・都市に関わる諸事象の空間的な規則性や傾向性、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。 ②集落の機能や形態などに注目し、「世界の居住問題」などの主題を設定して多面的・多角的に考察・表現する。	行動観察 プリント 振り返りシート 課題レポート	○	○ ○ ○ ○	○

		拡大と都市システム 3. 世界の都市・居住問題と解決への努力 日本を知る 日本の都市・居住問題と解決への努力						
		前期末考査	1				○	○
10	第5章文化と国家 ①生活文化と言語・宗教	1. 生活文化と地域 2. 世界の衣服 3. 世界の食生活 4. 世界の住居 5. 世界の言語 6. 世界の宗教	4	①生活文化と言語・宗教に関わる諸事象の空間的な規則性や傾向性、民族問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。 ②世界の衣食住や言語・宗教の地域性などに着目し、「生活文化の多様性」などの主題を設定して多面的・多角的に考察・表現する。	行動観察 プリント		○	○
	②国家とその領域	1. 国家の形成と領域 2. 世界の民族・領土問題 3. 日本の領土に関する問題 4. 海洋国家としての日本 新しい視点 北極圏と南極圏 5. 国際連合の役割と課題	5	①国家とその領域に関わる諸事象の空間的な規則性や傾向性、領土問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。 ②国家の特徴や国家の結びつきなどに着目し、「世界の民族・領土問題」などの主題を設定して多面的・多角的に考察・表現する。	行動観察 プリント 振り返りシート 課題レポート		○	○
	第2編 現代世界の地域区分	1. 地域区分の目的と方法 2. さまざまな地域区分 3. 本書でとりあげる地域と考察方法	3	①地域区分について理解し、現代世界が自然・文化・国家群・経済などの指標によって様々な区分ができることを習得させ、それぞれの区分からわかる地域の特徴や複数の区分によって把握できる地域の特徴を考察する。	行動観察 プリント		○	○
	①中国	1. 経済の改革開放による変化 2. 経済発展を支える人口 3. 経済発展を支える農業の地域性 4. 経済・産業の発展と現代の生活 5. 経済成長と国内外の課題	4	①世界の大国としての中国について、歴史的背景や経済体制、政策、工業、人口、民族、自然、農牧業、資源・エネルギー、貿易、投資・援助といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを経済成長と関連づけながら地域的特色を考察・理解する。 ②日本をはじめ世界各国に与える影響や今後構築すべきより良い国際関係について探究する。	行動観察 プリント		○	○
	②朝鮮半島	1. 東アジアのなかの朝鮮半島 2. 朝鮮半島の文化と経済発展 3. 韓国の課題と国際関係	2	①隣国としての韓国について、自然や文化、歴史的背景、経済発展、都市・人口問題、貿易といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解する。	行動観察 プリント			
	③東南アジア	1. 東南アジアの成り立ちと多様な民族文化 2. 自然環境と農業・食文化 3. 工業化による発展と生活文化への影響 4. 地域内外の経済関係と文化のつながり	3	①経済発展の著しい東南アジアについて、歴史的背景や民族、自然、農業、工業、都市問題、地域間連携といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを多様な文化と関連づけながら地域的特色を考察・理解する。 ②今後の発展的変化やそれに伴う日本や中国をはじめとする周辺地域との関係について探究する。	行動観察 プリント		○	○
	④南アジア	1. 自然環境と人口 2. 住民と文化 3. 農業と農村 4. 産業の発展とグローバル化	3	①近年急成長するインドを中心とした南アジアについて、自然、人口、文化・生活、民族問題、農牧業、工業、国際的な経済連携といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解する。 ②今後の発展やそれに伴う日本をはじめ世界各国に与える影響について探究する。	行動観察 プリント		○	○
	⑤西アジア・中央アジア	1. 多様な自然環境 2. 民族と文化 3. 資源開発の進展と生活の変化 4. 地域紛争と国際関係	3	①乾燥地帯に位置する西アジア・中央アジアについて、農牧業、イスラームの教えやそれに基づく生活、言語・民族、資源を背景に発達した経済、地域紛争といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて二つの地域を類似性に着目して比較しながら地域的特色を考察・理解する。	行動観察 プリント		○	○
	⑥北アフリカ・サブサハラアフリカ	1. 自然環境と農業 2. 歴史と文化 3. 産業と経済発展 4. 地域紛争と国際関係	3	①広大な大陸に位置するアフリカについて、自然や農牧業、歴史的背景・民族、産業・経済構造、地域紛争、国際関係といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて北アフリカ・サブサハラアフリカの二つの地域を対照的に着目して比較しながら地域的特色を考察・理解する。	行動観察 プリント		○	○
11	⑦ヨーロッパ	1. 統合するヨーロッパ 2. 統合の背景としての文化の多様性 3. 自然と農業の地域性と共通農業政策 4. エネルギー・工業と貿易・交通の変化 5. ヨーロッパの変化と課題	4	①地域統合の進んだヨーロッパについて、EUとその歴史的背景、民族、自然、農牧業、工業とエネルギー、貿易と交通、経済格差といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを地域統合と関連づけながら地域的特色を考察・理解する。 ②今後の変化や日本をはじめとする世界各国への影響について探究する。	行動観察 プリント		○	○
	⑧ロシア	1. 自然環境と民族・文化 2. 体制転換と産業の	3	①世界最大の面積を持つロシアについて、自然と歴史的背景、民族、体制の転換と産業の変化、地域格差、交通といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解する。	行動観察 プリント		○	○

	変化 3. ロシアと世界の結びつき						
⑨ アングロアメリカ	1. 自然環境の多様性と自然災害の特徴 2. 社会の多様性と多文化社会 3. 世界をリードする農業と産業 4. 世界と結びつくアメリカ	3	① 広大な面積を持つアングロアメリカの2か国について、自然、歴史的背景、民族・文化、農業、鉱工業、世界との結びつき、都市・居住問題といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させ、今後、関係の深い日本をはじめ世界各国に与える影響について探究する。	行動観察 プリント	○	○	○
⑩ ラテンアメリカ	1. 自然環境の多様性と自然災害の特徴 2. 社会の多様性と多文化社会 3. 世界をリードする農業と産業 4. 世界と結びつくアメリカ	3	① 南北に長いラテンアメリカについて、自然、農業、歴史的背景と民族、社会問題、鉱工業、貿易、経済連携といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解する。	行動観察 プリント	○	○	○
⑪ オーストラリア	1. 自然と農牧業・鉱工業 2. 多文化主義の社会と大都市の発達 3. 世界との結びつき	3	① 南半球に位置する大陸国家オーストラリアについて、自然と産業、歴史的背景と民族・文化、都市、世界との結びつきといった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解する。 ② 日本をはじめとするアジアやオセアニアなど各国との結びつきの変化について探究させる。	行動観察 プリント	○	○	○
⑫ ニューゼalandと島嶼国	1. オセアニアのなかのニューゼaland	1	① 日本と同じ太平洋に面するニューゼalandとオセアニアの島嶼国について、自然、農業、歴史的背景と民族・文化といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを結びつけて地域的特色を考察・理解する。	行動観察 プリント 振り返りシート 課題レポート	○	○	○
	後期中間考査	1			○	○	
		105					

### <学習内容についての補足説明>

3年生の地理探究は4単位で、後期中間考査までは「地理探究」を週4単位で学ぶ。その後、週4単位で地理特論を学習する。

### 4. 評価の観点・方法（及び年間の評定）

次の3つの観点から評価する。

知識・技能	○地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解しているか。 ○地図や地理情報システムなどを用いて調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けているか。
思考・判断・表現	○地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して系統地理・地誌的に概念などを活用して多面的・多角的に考察しているか。 ○地理的な課題の解決に向けて構想しているか。 ○考察・構想したことを効果的に説明したりそれらを基に議論したりすることができるか。
主体的に学習に取り組む態度	○地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究し解決しようとしているか。 ○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚や我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深めることができているか。

評価は具体的には次のものを対象とする。

- ・定期考査では、ペーパーテストによって出題範囲における習得の状況を評価する。
- ・定期考査以外に適宜、確認テストによって単元ごとの習得の状況を確認する。
- ・課題追究学習の際のレポート、学習活動の様子や発表、討論などの様子を評価のための資料とする。
- ・自己評価、振り返りシート、レポートを参考とする。

評定は、上記の内容を総合的に判断して決定する。

### 5. 特に強調しておきたい点

予測不可能な将来を生きる皆さんには、「地理総合」で学んだ社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を行ってもらいます。この活動を通じて、広い視野をもつとはどのようなことなのか、グローバル化する国際社会をどうすれば主体的に生きることができるのか、平和で民主的な国家及び社会を形成するにはどのような力が必要なのかなどを仲間とともに考えて、最終的にはそのような思考・判断・表現力を身に付けてもらいます。とは言え地理の基礎的な力がなければ考察することはできないので、日々の授業を大切に予習・復習することはもちろんですが、自ら新聞やニュース等さまざまなツールを使って情報を収集して、世界の諸地域がかかえる課題について関心をもってもらいたいと思います。

地理特論

科 目	地理特論		年次・コース	3年理系クラス
単 位 数	1	使用教科書 地理探究 (山川出版) 新詳高等地図 (帝国書院)	副教材・問題集等	新編地理資料(とうほう) ニューコンパスノート地理(とうほう) 大学入学共通テスト実践問題集地理(駿台文庫) 共通テスト実力完成直前演習地理(ラーズ)

1. 科目の目標

「地理探究」で学んだ社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して系統地理・地誌的に概念などを活用して多面的・多角的に考察したりするとともに、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したりそれらを基に議論したりすることができる。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究し解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚や我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深めることができる。

3. 学習の計画

月	単元	指 導 項 目	予 定 時 間	主な学習活動(指導内容)と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4 5 6	第3編 現代日本におけるこれからの日本の国土像	2050年の日本の姿 テーマ①自然災害に強い国土をめざすには  テーマ②産業の変化と持続可能な成長	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代日本に関する資料からキーワードや数値を読み取り、主旨を把握する。</li> <li>・事象の因果関係や背景を関連付けて考察する。</li> <li>・複数の事象を比較して差異や共通点・特色をとらえる。</li> <li>・明確な根拠、与えられた条件との整合性など、論理的な整合性を判断する。</li> <li>・様々な側面や立場からとらえ、概念などを活用して考察する。</li> <li>・概念や理論に当てはまる具体的な出来事をとらえ、抽象化する。</li> </ul>	行動観察 プリント 振り返りシート	○	○	○
7 8 9	テーマ③人口減少社会を活性化させるためには  テーマ④多文化共生社会の実現をめざして	○				○	○	
10 11 12 1 2	巻末付録 地図とGISの理解を深める	1. 地図の味方・考え方 2. 地理院地図を活用しよう 3. web GISにアクセスしよう 4. GISとGNSSのしくみ				15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図とGISに関する資料からキーワードや数値を読み取り、主旨を把握する。</li> <li>・事象の因果関係や背景を関連付けて考察する。</li> <li>・複数の事象を比較して差異や共通点・特色をとらえる。</li> <li>・明確な根拠、与えられた条件との整合性など、論理的な整合性を判断する。</li> <li>・様々な側面や立場からとらえ、概念などを活用して考察する。</li> <li>・概念や理論に当てはまる具体的な出来事をとらえ、抽象化する。</li> </ul>	行動観察 プリント 振り返りシート
		35						

3. 評価の観点・方法(及び年間の評定)

次の3つの観点から行う。

知識・技能	○地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解しているか。 ○地図や地理情報システムなどを用いて調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けているか。
思考・判断・表現	○地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して系統地理・地誌的に概念などを活用して多面的・多角的に考察しているか。 ○地理的な課題の解決に向けて構想しているか。 ○考察・構想したことを効果的に説明したりそれらを基に議論したりすることができるか。

主体的に学習に取り組む態度	<p>○地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究し解決しようとしているか。</p> <p>○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚や我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする事の大切さについての自覚などを深めることができているか。</p>
---------------	--

評価は、具体的には次のものを対象とする。

- ・学習活動の様子や発表、討論などの様子を評価のための資料とする。
- ・自己評価、振り返りシート、レポートを参考とする。

また、評定は、上記の内容を総合的に判断して決定します。

## 5. 特に強調しておきたい点

予測不可能な将来を生きる皆さんには、「地理探究」で学んだ社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を行ってもらいます。この活動を通じて、広い視野をもつとはどのようなことなのか、グローバル化する国際社会をどうすれば主体的に生きることができるのか、平和で民主的な国家及び社会を形成するにはどのような力が必要なのかなどを仲間とともに考えて、最終的にはそのような思考・判断・表現力を身に付けてもらいます。とは言え地理の基礎的な力がなければ考察することはできないので、日々の授業を大切に予習・復習することはもちろんですが、自ら新聞やニュース等さまざまなツールを使って情報を収集して、世界の諸地域がかかえる課題について関心をもってもらいたいと思います。

科目	数学Ⅲ（理系）		年次・コース	3年理系
単位数	2	使用教科書	数研出版 数学Ⅲ 副教材・問題集等	4step 数学Ⅲ+C（数研出版）

1. 科目の目標

関数と極限、微分法及び積分法について理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。

3. 学習の計画

月	単元	指導項目	予定時間	主な学習活動（指導内容）と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4	4章 微分法の応用 1節 導関数の応用	1 接線・法線 2 平均値の定理 3 関数の値の変化 4 関数の最大・最小	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>種々の接線，法線の方程式を求めることができる。</li> <li>平均値の定理に興味をもち，定理を利用して，不等式を証明する方法を理解している。</li> <li>第2次導関数と極値の関係を理解し，第2次導関数を利用して極値を求めることができる。</li> <li>関数の最大値・最小値を調べる際に，増減表を書いて考察する。</li> </ul>	週末課題 振り返りシート 小テスト	○	○	○
5	4章 微分法の応用 1節 導関数の応用  2節 速度と近似式  5章 積分法 1節 不定積分	5 関数のグラフ 6 方程式・不等式への応用  1 速度・加速度 2 近似式  1 不定積分とその基本公式	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>関数の増減，凹凸，変曲点，漸近線，定義域，<math>x \rightarrow \pm\infty</math>のときの状態などを調べてグラフをかくことができる。</li> <li>方程式や不等式を関数的視点でとらえ解決する。</li> <li>導関数の意味から，点の位置を表す関数の導関数が速度，第2次導関数が加速度を表すことを理解する。</li> <li>不定積分の定義や性質を理解し，それを利用して種々の関数の不定積分を計算できる。</li> </ul>	週末課題 振り返りシート 小テスト	○	○	○

6	5章 積分法		1 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合成関数の微分の逆演算として、置換積分法を理解し、積の微分の逆演算として、部分積分法を理解することができる。</li> <li>・様々な工夫によって被積分関数を変形することで、不定積分を求めることができる。</li> <li>・定積分の定義や性質を理解し、それを利用して種々の関数の定積分を計算できる。</li> <li>・定積分の置換積分法では、積分区間の変換に注意して定積分を計算している。</li> <li>・定積分の定義や性質を理解し、それを利用して種々の関数の定積分を計算できる。</li> <li>・定積分の置換積分法では、積分区間の変換に注意して定積分を計算している。</li> </ul>	週末課題		○	○
	1節 不定積分	1 不定積分とその基本公式 2 置換積分法 3 部分積分法 4 いろいろな関数の不定積分			定期考査 ○ ○ 課題テスト ○ ○ ○ 振り返りシート ○ ○ 小テスト ○ ○			
7	2節 定積分	3 定積分の部分積分法	1 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定積分の置換積分法、部分積分法を理解し、それを利用して複雑な関数の定積分を計算できる。</li> <li>・上端、下端が変数<math>x</math>である定積分で表された関数の扱い方を理解する。上端、下端がともに定数である定積分を含む関数を定積分を定数と置くことで求められる。</li> <li>・曲線で囲まれた部分の面積を微少な長方形で近似する考え方で、定積分と和の極限との関係を考察することができる。</li> <li>・直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。</li> </ul>	週末課題		○	○
		4 定積分の種々の問題			振り返りシート ○ ○ 小テスト ○ ○			
8	2節 定積分	4 定積分の種々の問題	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立体の断面積を積分することで体積が求められることを理解し、体積を求めることができる。</li> <li>・数直線上を運動する点の座標、道のりを定積分を用いて求めることができる。</li> </ul>	週末課題		○	○
			70		定期考査 ○ ○ 振り返りシート ○ ○ 小テスト ○ ○		○	○

#### 4. 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能

基本的な概念や原理・法則、用語・記号などを理解し、数学的な知識を身に付けている。  
また、基本事項を理解したうえで、それらの知識や数学的スキルを応用した問題を解決する知識やスキルを身に付けている。

	社会の事象などから設定した問題について、数学Ⅰで学習した内容をもとに、事象を数式化したり数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりして問題を解決できる。
思考・判断・表現	主体的に問題を解決することを通して、文字に置き換えたり、帰納的に考えたりするなどの数学的な見方や考え方を身に付け、様々な事柄を数学的にとらえて論理的に考えるとともに、考えた道筋を振り返っているいろいろな解法を考えたり、さらに問題を発展的に考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	主体的に問題を解決することを通して、数学的な見方や考え方の良さがわかり、それらを様々な事柄の考察に積極的に活用することができる。 問題解決に向け、知識・技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりするなど、粘り強く取り組むことができる。 学習目標を設定し見通しを立てたうえで学習に取り組み、内容の途中や終了時に目標と現時点との差を確認し次につなげることができる。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・年3回の定期考査(前期中間・前期期末・後期中間)  
※各考査の出題範囲は各考査直前までの学習内容を基本とします。
- ・春季休業明けの課題考査
- ・単元の学習後に実施する単元テスト
- ・週末課題・長期休業に出題される課題
- ・学習への参加状況(数学的活動への取り組み状況、授業中の発言の内容等)

また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します

## 5. 特に強調しておきたい点

数学を学習することにおいて留意することは、単に公式や定理を暗記して問題を解くだけではなく、数学の用語・記号・公式・定理などを理解して身につけて活用することです。そうでないと、忘れてしまった場合に公式や定理などを想起することができなくなります。また、数学を学習していく過程で、帰納的な考え方、演繹的な考え方など、数学特有の見方や考え方を学ぶこととなります。このような見方、考え方の良さを理解し、何が本質であるかを見抜くことが大切であり、この本質をつかむと、未知のいろいろな事柄にも見通しをもって対処することができるようになります。数学の学習を通して、見通しをもち筋道立てて考え、判断できる力を身につけるとともに、日常生活や社会生活において数学を積極的に活用することを期待します。

理系数学特講 A (発展)

科目	理系数学特講 A (発展)		年次・コース	3年理系
単位数	2	使用教科書	副教材・問題集等	ラーンズ 共通テスト直前演習数学 I A II B C 数研出版 2027数学 I A II B C プレノートFull
		クリアー数学演習Ⅲ・C受験編 (数研出版)		

1. 科目の目標

複素数平面、平面上の曲線、関数と極限、微分法及び積分法について理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。

3. 学習の計画

月	単元	指導項目	予定時間	主な学習活動 (指導内容) と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
9	Step Up	I 複素数平面 II 式と曲線 III 関数 IV 極限 V 微分法 VI 微分法の応用 VII 積分法 VIII 積分法の応用	1 1	・数学の知識を用いて様々な応用問題を自分の力で解こうとする。 ・毎時間、生徒は3～4問を予習する。 指名された順に授業前に板書し、教師は解説を行う。	週末課題 小テスト 定期考査	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
10 11	Clear	I 複素数平面 II 式と曲線 III 関数 IV 極限 V 微分法 VI 微分法の応用 VII 積分法 VIII 積分法の応用	2 8	・数学の知識を用いて様々な応用問題を自分の力で解こうとする。 ・毎時間、生徒は3～4問を予習する。 指名された順に授業前に板書し、教師は解説を行う。	週末課題 小テスト 定期考査	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
12	共通テスト直前演習 I A II B C		1 3	・マーク形式の総合的な問題を解くことができる。	レポート	○	○	○
1	数学 I A II B C		1 3	・マーク形式の総合的な問題を解くことができる。	レポート	○	○	○

	プレノート Full 入試問題集  入試問題			・記述式の総合的な問題を解くことができる。				
2	入試問題		5	・記述式の総合的な問題を解くことができる。	レポート	○	○	○
			70					

<学習内容についての補足説明>

- ・「クリアー数学演習Ⅲ・C 受験編」を使って、数学ⅢC全般の復習をした後、「共通テスト直前演習数学ⅠAⅡBC」「2027 数学ⅠAⅡBCプレノート Full」で共通テストに通用する実践力を身に付け、最後に入試問題プリントで2次試験に対応できる記述力を身に付けるように問題演習をします。
- ・単元テストや定期考査を実施し、学習到達度を確認します。

4. 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。	
知識・技能	基本的な概念や原理・法則、用語・記号などを理解し、数学的な知識を身に付けている。 また、基本事項を理解したうえで、それらの知識や数学的技能を応用した問題を解決する知識や技能を身に付けている。 社会の事象などから設定した問題について、数学Ⅰで学習した内容をもとに、事象を数学化したり数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりして問題を解決できる。
思考・判断・表現	主体的に問題を解決することを通して、文字に置き換えたり、帰納的に考えたりするなどの数学的な見方や考え方を身に付け、様々な事柄を数学的にとらえて論理的に考えるとともに、考えた道筋を振り返っていろいろな解法を考えたり、さらに問題を発展的に考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	主体的に問題を解決することを通して、数学的な見方や考え方の良さがわかり、それらを様々な事柄の考察に積極的に活用することができる。 問題解決に向け、知識・技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりするなど、粘り強く取り組むことができる。 学習目標を設定し見通しを立てたうえで学習に取り組み、内容の途中や終了時に目標と現時点との差を確認し次につなげることができる。
このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回の定期考査(前期中間・前期期末・後期中間) ※各考査の出題範囲は各考査直前までの学習内容を基本とします。</li> <li>・春季休業明けの課題考査</li> <li>・単元の学習後に実施する単元テスト</li> <li>・週末課題・長期休業に出題される課題</li> <li>・学習への参加状況(数学的活動への取り組み状況、授業中の発言の内容等)</li> </ul>	
また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します	

5. 特に強調しておきたい点

数学を学習することにおいて留意することは、単に公式や定理を暗記して問題を解くだけではなく、数学の用語・記号・公式・定理などを理解して身につけて活用することです。そうでないと、忘れてしまった場合に公式や定理などを想起することができなくなります。また、数学を学習していく過程で、帰納的な考え方、演繹的な考え方など、数学特有の見方や考え方を学ぶこととなります。このような見方、考え方の良さを理解し、何が本質であるかを見抜くことが大切であり、この本質をつかむと、未知のいろいろな事柄にも見通しをもって対処することができるようになります。数学の学習を通して、見通しをもち筋道立てて考え、判断できる力を身につけるとともに、日常生活や社会生活において数学を積極的に活用することを期待します。

理系数学特講A (標準)

科目	理系数学特講A (標準)			年次・コース	3年理系
単位数	2	使用教科書	ベーシックスタイル数学演習Ⅲ・C受験編(数研出版)	副教材・問題集等	ラーンズ 共通テスト直前演習数学 I A II B C 数研出版 2027数学 I A II B C プレノートFull

1. 科目の目標

複素数平面、平面上の曲線、関数と極限、微分法及び積分法について理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。

3. 学習の計画

月	単元	指導項目	予定時間	主な学習活動(指導内容)と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
9	Same Style	第1章 複素数平面 第2章 式と曲線 第3章 関数 第4章 極限 第5章 微分法 第6章 積分法	1 1	・数学の知識を用いて様々な応用問題を自分の力で解こうとする。 ・毎時間、生徒は3～4問を予習する。 指名された順に授業前に板書し、教師は解説を行う。	週末課題 小テスト 定期考査	○	○	○
10 11	Complete	第1章 複素数平面 第2章 式と曲線 第3章 関数 第4章 極限 第5章 微分法 第6章 積分法	2 8	・数学の知識を用いて様々な応用問題を自分の力で解こうとする。 ・毎時間、生徒は3～4問を予習する。 指名された順に授業前に板書し、教師は解説を行う。	週末課題 小テスト 定期考査	○	○	○
12	共通テスト直前演習 I A II B C		1 3	・マーク形式の総合的な問題を解くことができる。	レポート	○	○	○
1	2027数学 I A II B C プレノートFull 入試問題		1 3	・マーク形式の総合的な問題を解くことができる。 ・記述式の総合的な問題を解くことができる。	レポート	○	○	○

2	入試問題		5	・記述式の総合的な問題を解くことができる。	レポート	○	○	○
			70					

<学習内容についての補足説明>

・「ベーシックスタイル数学演習Ⅲ・C受験編」を使って、数学ⅢC全般の復習をした後、「共通テスト直前演習数学ⅠAⅡBC」「2027 数学ⅠAⅡBCプレノート Full」で共通テストに通用する実践力を身に付け、最後に入試問題プリントで2次試験に対応できる記述力を身に付けるように問題演習をします。・単元テストや定期考査を実施し、学習到達度を確認します。

#### 4. 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能	基本的な概念や原理・法則、用語・記号などを理解し、数学的な知識を身に付けている。 また、基本事項を理解したうえで、それらの知識や数学的技能を応用した問題を解決する知識や技能を身に付けている。 社会の事象などから設定した問題について、数学Ⅰで学習した内容をもとに、事象を数式化したり数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりして問題を解決できる。
思考・判断・表現	主体的に問題を解決することを通して、文字に置き換えたり、帰納的に考えたりするなどの数学的な見方や考え方を身に付け、様々な事柄を数学的にとらえて論理的に考えるとともに、考えた道筋を振り返っているいろいろな解法を考えたり、さらに問題を発展的に考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	主体的に問題を解決することを通して、数学的な見方や考え方の良さがわかり、それらを様々な事柄の考察に積極的に活用することができる。 問題解決に向け、知識・技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりするなど、粘り強く取り組むことができる。 学習目標を設定し見通しを立てたうえで学習に取り組み、内容の途中や終了時に目標と現時点との差を確認し次につなげることができる。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・年3回の定期考査(前期中間・前期期末・後期中間)  
※各考査の出題範囲は各考査直前までの学習内容を基本とします。
- ・春季休業明けの課題考査
- ・単元の学習後に実施する単元テスト
- ・週末課題・長期休業に出題される課題
- ・学習への参加状況(数学的活動への取り組み状況、授業中の発言の内容等)

また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します

#### 5. 特に強調しておきたい点

数学を学習することにおいて留意することは、単に公式や定理を暗記して問題を解くだけではなく、数学の用語・記号・公式・定理などを理解して身につけて活用することです。そうでないと、忘れてしまった場合に公式や定理などを想起することができなくなります。また、数学を学習していく過程で、帰納的な考え方、演繹的な考え方など、数学特有の見方や考え方を学ぶこととなります。このような見方、考え方の良さを理解し、何が本質であるかを見抜くことが大切であり、この本質をつかむと、未知のいろいろな事柄にも見通しをもって対処することができるようになります。数学の学習を通して、見通しをもち筋道立てて考え、判断できる力を身につけるとともに、日常生活や社会生活において数学を積極的に活用することを期待します。

科目	理系数学特講B			年次・コース	3年理系
単位数	2	使用教科書	大学入学共通テスト対策／ 基本と演習 数学 I A+ IBC 標準演習PLAN120 (数研出版)	副教材・問題集等	ラーンズ 共通テスト直前演習数学 I A I B C 数研出版 2027 数学 I A I B C プレノートFull

1. 科目の目標

- ・数と式、関数と方程式・不等式、式と証明、整数の性質、場合の数、確率、図形の性質について理解を深め、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。
- ・式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数、微分法・積分法、ベクトル、数列について理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。

3. 学習の計画

月	単元	指導項目	予定時間	主な学習活動（指導内容）と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
9		第1章 数と式、集合と命題 第2章 2次関数 第3章 図形と方程式 第4章 データの分析 第5章 場合の数と確率 第6章 図形の性質	1 1	・数学 I Aの知識を用いて様々な応用問題を自分の力で解こうとする。 ・数学 I Aの知識を用い、発展的な問題を解くことができる。	週末課題 小テスト 定期考査	○	○	○
10 11		第7章 式と証明、複素数と方程式 第8章 図形と方程式 第9章 三角関数 第10章 指数関数・対数関数 第11章 微分法・積分法 第12章 数列 第13章 統計的な推測 第14章 ベクトル 第15章 平面上の曲線と複素数平面	2 8	・数学 II Bの知識を用いて様々な応用問題を自分の力で解こうとする。 ・数学 II Bの知識を用い、発展的な問題を解くことができる。	週末課題 小テスト 定期考査	○	○	○
12	共通テスト直前演習		1 3	・マーク形式の総合的な問題を解くことができる。	レポート	○	○	○

	I A II BC							
1	2027数 学 I A II BC プレノ ート Full  入試問 題集		1 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーク形式の総合的な問題を解くことができる。</li> <li>・記述式の総合的な問題を解くことができる。</li> </ul>	レポート	○	○	○
2	入試問 題集		5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記述式の総合的な問題を解くことができる。</li> </ul>	レポート	○	○	○
			70					

#### 4. 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能	<p>基本的な概念や原理・法則、用語・記号などを理解し、数学的な知識を身に付けている。</p> <p>また、基本事項を理解したうえで、それらの知識や数学的技能を応用した問題を解決する知識や技能を身に付けている。</p> <p>社会の事象などから設定した問題について、数学Iで学習した内容をもとに、事象を数学化したり数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりして問題を解決できる。</p>
思考・判断・表現	<p>主体的に問題を解決することを通して、文字に置き換えたり、帰納的に考えたりするなどの数学的な見方や考え方を身に付け、様々な事柄を数学的にとらえて論理的に考えるとともに、考えた道筋を振り返っていろいろな解法を考えたり、さらに問題を発展的に考えることができる。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>主体的に問題を解決することを通して、数学的な見方や考え方の良さがわかり、それらを様々な事柄の考察に積極的に活用することができる。</p> <p>問題解決に向け、知識・技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりするなど、粘り強く取り組むことができる。</p> <p>学習目標を設定し見通しを立てたうえで学習に取り組み、内容の途中や終了時に目標と現時点との差を確認し次につなげることができる。</p>

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・年3回の定期考査(前期中間・前期期末・後期中間)
- ※各考査の出題範囲は各考査直前までの学習内容を基本とします。
- ・春季休業明けの課題考査
- ・単元の学習後に実施する単元テスト
- ・週末課題・長期休業に出題される課題
- ・学習への参加状況(数学的活動への取り組み状況、授業中の発言の内容等)

また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します

#### 5. 特に強調しておきたい点

数学を学習することにおいて留意することは、単に公式や定理を暗記して問題を解くだけではなく、数学の用語・記号・公式・定理などを理解して身につけ活用することです。そうでないと、忘れてしまった場合に公式や定理などを想起することができなくなります。また、数学を学習していく過程で、帰納的な考え方、演繹的な考え方など、数学特有の見方や考え方を学ぶこととなります。このような見方、考え方の良さを理解し、何が本質であるかを見抜くことが大切であり、この本質をつかむと、未知のいろいろな事柄にも見通しをもって対処することができるようになります。数学の学習を通して、見通しをもち筋道立てて考え、判断できる力を身につけるとともに、日常生活や社会生活において数学を積極的に活用することを期待します。

数学C (理系)

科目	数学C (理系)		年次・コース	3年理系
単位数	3	使用教科書	数研出版 数学C 副教材・問題集等	数研出版 4step 数学III+C 数研出版 クリアー数学演習 I A II BC 受験編 ラーンズ 共通テスト直前演習数学 I A II B C 数研出版 2027 数学 I A II B C プレノート Full

1. 科目の目標

平面上の曲線，複素数平面についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。

3. 学習の計画

月	単元	指導項目	予定時間	主な学習活動 (指導内容) と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4	3章 複素数平面	1 複素数平面 2 複素数の極形式と乗法, 除法  3 ド・モアブルの定理  4 複素数と図形	1 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>複素数を極形式で表すことができる。</li> <li>複素数の積や商の意味を図表示を通して理解し、問題に応用できる。</li> <li>ド・モアブルの定理を導き、二項方程式が解ける。</li> <li>複素数平面上の線分の内分点や外分点を表す複素数を求められる。</li> <li>複素数平面上で垂直二等分線や円の方程式を求められる。</li> <li>複素数の偏角や絶対値を考察し、2つの半直線のなす角や線分の長さの比を求められる。</li> <li>3点が一直線上にある条件や2直線が垂直に交わる条件、三角形の形状などを考察できる。</li> </ul>	週末課題 振り返りシート 小テスト	○	○	○
5	4章 式と曲線 1節 2次曲線	1 放物線 2 楕円 3 双曲線 4 2次曲線の平行移動	1 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>定点や定直線からの距離について、ある条件を満たす点の軌跡として「放物線」「楕円」「双曲線」を理解できる。</li> <li>平行移動の一般形を理解でき、2次曲線の平行移動に応用できる。</li> </ul>	週末課題 振り返りシート 小テスト	○	○	○

		5 2次曲線と直線 6 2次曲線と性質		<ul style="list-style-type: none"> <li>・2次曲線と直線の位置関係を理解でき、2次方程式の理論を用いて位置関係を分類できる。</li> <li>・2次曲線の離心率によりその形状を分類できる。</li> </ul>				
6	2節 媒介変数表示と極座標	1 曲線の媒介変数表示 2 極座標と極方程式 3 コンピュータといろいろな曲線	1 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲線の媒介変数表示の便利さを理解でき、活用できる。</li> <li>・極座標と直交座標の違いを理解でき、相互の変換ができる。</li> <li>・コンピュータソフトを利用して、さまざまな曲線を視覚的にとらえることができる。</li> </ul>	週末課題 定期考査 課題テスト 振り返りシート 小テスト		○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
7 8 9	クリアー数学 I II A B C Step Up	I 数と式 II 関数と方程式・不等式 III 式と証明 IV 整数の性質 V 場合の数, 確率 VI 図形の性質 VII 図形と式 VIII 三角比・三角関数 IX 指数関数・対数関数 X 微分法 XI 積分法 XII 数列 XIII ベクトル XIV 統計	2 0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学の知識を用いて様々な応用問題を自分の力で解こうとする。</li> <li>・数学 I II A B C の知識を用い、発展的な問題を解くことができる。</li> <li>・問題を自分で説明することができる。</li> </ul>	週末課題 小テスト 定期考査		○ ○ ○	○ ○ ○
10 11	クリアー数学 I II A B C Clear	I 数と式 II 関数と方程式・不等式 III 式と証明 IV 整数の性質 V 場合の数, 確率 VI 図形の性質 VII 図形と式 VIII 三角比・三角関数 IX 指数関数・対数関数 X 微分法 XI 積分法 XII 数列 XIII ベクトル XIV 統計	2 0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学の知識を用いて様々な応用問題を自分の力で解こうとする。</li> <li>・数学 I II A B C の知識を用い、発展的な問題を解くことができる。</li> <li>・問題を自分で説明することができる。</li> </ul>	週末課題 小テスト 定期考査		○ ○ ○	○ ○ ○

12	共通テスト直前 演習 I A II BC		1 0	・マーク形式の総合的な問題を解くことができる。	レポート	○	○	○
1	2027数学 I A II BCプレノート Full 入試問題		1 0	・マーク形式の総合的な問題を解くことができる。 ・記述式の総合的な問題を解くことができる。	レポート	○	○	○
2	入試問題		4	・記述式の総合的な問題を解くことができる。	レポート	○	○	○
			105					

<学習内容についての補足説明> (授業の形態等の詳細な説明も含む。)

- ・ 数学C「第3章 複素数平面」「第4章 式と曲線」を学びます。
- ・ 各章や単元の終わりに小テストを実施し、学習到達度を確認します。
- ・ 第4章が終了したら入試問題演習(主に2次試験対策)を始めます。
- ・ 12月に入ったら特別編成時間割で数学ⅢとCに分けることなくクラス毎に共通テスト対策を行います。
- ・ 共通テスト終了後は入試問題演習(数学ⅢCを含む2次試験対策)に入ります。

#### 4. 評価の観点・方法(及び年間の評定)

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能	基本的な概念や原理・法則、用語・記号などを理解し、数学的な知識を身に付けている。 また、基本事項を理解したうえで、それらの知識や数学的スキルを応用した問題を解決する知識やスキルを身に付けている。 社会の事象などから設定した問題について、数学Iで学習した内容をもとに、事象を数学化したり数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりして問題を解決できる。
思考・判断・表現	主体的に問題を解決することを通して、文字に置き換えたり、帰納的に考えたりするなどの数学的な見方や考え方を身に付け、様々な事柄を数学的にとらえて論理的に考えるとともに、考えた道筋を振り返っていろいろな解法を考えたり、さらに問題を発展的に考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	主体的に問題を解決することを通して、数学的な見方や考え方の良さがわかり、それらを様々な事柄の考察に積極的に活用することができる。 問題解決に向け、知識・スキルを獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりするなど、粘り強く取り組むことができる。 学習目標を設定し見通しを立てたうえで学習に取り組み、内容の途中や終了時に目標と現時点との差を確認し次につなげることができる。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・ 年3回の定期考査(前期中間・前期期末・後期中間)  
※各考査の出題範囲は各考査直前までの学習内容を基本とします。
- ・ 春季休業明けの課題考査
- ・ 単元の学習後に実施する単元テスト
- ・ 週末課題・長期休業に出題される課題
- ・ 学習への参加状況(数学的活動への取り組み状況、授業中の発言の内容等)

また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します

#### 5. 特に強調しておきたい点

数学を学習することにおいて留意することは、単に公式や定理を暗記して問題を解くだけではなく、数学の用語・記号・公式・定理などを理解して身につけて活用することです。そうでないと、忘れてしまった場合に公式や定理などを想起することができなくなります。また、数学を学習していく過程で、帰納的な考え方、演繹的な考え方など、数学特有の見方や考え方を学ぶこととなります。このような見方、考え方の良さを理解し、何が本質であるかを見抜くことが大切であり、この本質をつかむと、未知のいろいろな事柄にも見通しをもって対処することができるようになります。数学の学習を通して、見通しをもち筋道立てて考え、判断できる力を身につけるとともに、日常生活や社会生活において数学を積極的に活用することを期待します。

**物理（3年）**

科 目	物理	単位数	4単位	年次・コース・組	3年理系 物理選択者
使用教科書	「高等学校 物理」（啓林館）				
副教材等	「セミナー物理」（第一学習社） 「らくらくマスター 物理基礎・物理」（河合出版）				

1 学習の到達目標

物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を身につけるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察や実験を通して、さまざまな自然現象の背景には原理や法則があることを理解できたか。</li> <li>・自然現象を定量的に考察するため、物理量（概念）を定義し、利用することが理解できたか。</li> <li>・観察や実験の技能を修得できたか。</li> <li>・観察や実験を通して科学的に探究する方法を習得できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな物理現象を論理的に考察・分析し、その本質を原理や法則から説明できるか。</li> <li>・観察や実験を通して、物理現象を論理的に分析的し、問題を解決し、実験結果（事実）に基づいて科学的に判断できるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然現象に関心を持ち、科学的な見方をしているか。</li> <li>・授業、実験に意欲的に参加し、論理的に探究しようとする態度が見えるか。</li> <li>・学習内容について振り返り、日常生活や社会に生かそうとしているか。</li> </ul>

3 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む。）

月	単元名	使用教科書項目	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価方法	評価の観点		
					a	b	c
4・5月	<b>第4部</b> 「電気と磁気」 第1章 【電界と電位】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静電気力</li> <li>・電場</li> <li>・電位</li> <li>・物質と電場</li> <li>・コンデンサー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電場・静電気などの、様々な現象について関心を持ち、意欲的に探求できる。</li> <li>・電場の表し方の方法から、クーロンの法則の成り立ちを理解し、静電気力の大きさを物理的に考察できる。</li> <li>・電場内での仕事の概念から、電位を表す方法とエネルギー概念を考察できる。</li> <li>・コンデンサーのしくみを知ることにより、回路内での働き等について物理的に考察できる。</li> <li>・電気力線や等電位線を理解し電場の様子を図示できる。</li> <li>・コンデンサーの直列接続、並列接続について式を用いて表現できる。</li> <li>・静電気についての基本的な考え方を理解でき、その知識が身に付いている。</li> <li>・電気力、電場、電気力線、等電位線の基本的な考え方、および関係式を理解できる。</li> <li>・コンデンサーの基本的な構造と働きが、回路を含めて理解できる。</li> </ul>	行動観察 ワークシート 振り返りシート 前期中間考査	○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○
6月	<b>第2章</b> 【電流】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オームの法則</li> <li>・直流回路</li> <li>・半導体</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電流回路に関心を持ち、意欲的に探求できる。</li> <li>・回路内での電流、電圧、負荷等について、その関係を物理的に考察できる。</li> <li>・抵抗の直列接続、並列接続について式を用いて表現できる。</li> <li>・キルヒホッフの法則を、回路図より導きだすことができ</li> </ul>	行動観察 ワークシート 振り返りシート	○	○ ○ ○	○ ○ ○

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・電氣的負荷による電圧降下と負荷を流れる電流との関係が理解できる。</li> <li>・キルヒホッフの法則が理解でき、その知識が身についている。</li> </ul>				
前期中間考査							
7・8月	<b>第3章</b> [電流と磁界]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・磁場</li> <li>・電流のつくる磁場</li> <li>・電流が磁場から受ける力</li> <li>・ローレンツ力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・磁場やコイルなどの、様々な現象について関心をもち、意欲的に探求できる。</li> <li>・磁場と電流や荷電粒子との関係を理解し、いろいろな磁場の現象について物理的に考察をおこなうことができる。</li> <li>・磁力線を理解し磁場の様子を図示できる。</li> <li>・磁場についての現し方、基本的な考え方を理解でき、その知識が身についている。</li> <li>・電流が作る磁場、および電流が磁場から受ける力、右ねじの法則、フレミングの左手の法則、ローレンツ力を理解し、その知識が身についている。</li> </ul>	行動観察 ワークシート 振り返りシート 夏季課題考査	○	○	○
9月	<b>第4章</b> [電磁誘導と電磁波]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電磁誘導の法則</li> <li>・交流の発生</li> <li>・自己誘導と相互誘導</li> <li>・交流回路</li> <li>・電磁波</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活に関わり深い交流、電波に関心をもち、意欲的に探究しようとする。</li> <li>・コイル（電磁石）の働きについて感心をもち、その働きについて意欲的に探究できる。</li> <li>・交流発電のメカニズム、原理を思考しながら考察できる。</li> <li>・コイルの性質と働きを物理的に考察できる。</li> <li>・交流回路における電流、電圧を定量的に考察できる。</li> <li>・電気振動を物理的に考察できる。</li> <li>・交流回路を流れる電流、電圧、消費電力が交流発電のメカニズムよりどのような式で表されるのか表現できる。</li> <li>・交流発電のメカニズム、原理が理解でき、その知識が身についている。</li> <li>・交流回路における電流、電圧を定量的に理解できる。</li> <li>・電磁波の発生を理解できる。</li> </ul>	行動観察 ワークシート 振り返りシート 前期期末考査	○	○	○
前期期末考査							
10・11月	<b>第5部</b> 「原子・分子の世界」 <b>第1章</b> [電子と光]  <b>第2章</b> [原子・原子核・素粒子]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子</li> <li>・光の粒子性</li> <li>・X線</li> <li>・粒子の波動性</li> <li>・原子の構造とエネルギー準位</li> <li>・原子核</li> <li>・放射線とその性質</li> <li>・核反応と核エネルギー</li> <li>・素粒子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放電現象から電子の性質を知り、電子の質量、電気素量を知り、電子を用いた身の回りの現象に興味を持って探求できる。</li> <li>・電子の質量、電気素量などをトムソン、ミリカンの実験などを通して、定量的に求めることを理解できる。</li> <li>・光電効果などの現象から光の粒子性について考えることができる。</li> <li>・X線について粒子性と波動性の両面から考えることができる。</li> <li>・電子などの粒子がもつ波動性について考えることができる。</li> <li>・ボーアの理論の結果を導くことができる。</li> <li>・原子核の構成についての基本的な知識が身についている。</li> <li>・放射線の利用についての基本的な知識が身についている。</li> <li>・核反応について保存される量を理解し、式を用いて表現できる。</li> </ul>	行動観察 ワークシート 振り返りシート 後期中間考査	○	○	○
後期中間考査							
12・1・2月	<b>総合演習</b>	・全分野	・問題演習	行動観察 ワークシート	○	○	○

<学習内容についての補足説明>

物理は4単位で、週4時間の授業を行う。12月からは、総合演習として、主に問題演習を行う。

4 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。

a：知識・技能	○物理に関する基本的な概念や原理・法則などを正しく理解しているか。 ○観察・実験などにおける操作や記録方法などの基本的な技能を身に付けているか。
b：思考・判断・表現	○身近な物理現象に対する疑問を持ち、その解決に向けて、物理学的な知識をもとに考察できるか。 ○観察・実験などを通して、得られた結果を分析して考察できるか。 ○科学的に正確な情報を適切に選択できているか。 ○自らの考えを、科学的根拠をもって表現し、議論することができる。
c：主体的に学習に取り組む態度	○身近な生物や生物現象に対して関心を持ち、探究しようとしているか。 ○科学の発展に伴う現代の問題に対して、自分の考えをもっているか。 ○学習の過程で、自らの考えを表現し、議論しようという姿勢であるか。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・定期考査(前期中間・期末・後期中間) ・小テスト、単元テスト(随時)
- ・長期休暇明けの課題考査
- ・実習レポート(観察・実験・演習への取り組み)・単元ごとの振り返りレポート(シート)

また、評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定する。

5 特に強調しておきたい点（留意すべき点・担当者からのメッセージを含む。）

「物理」の学習を通して、身近な物理現象やエネルギーなどについての理解を深めるとともに、自然界・宇宙においてはもちろん、日常生活や社会の中で、物理学が人々の生活や科学技術に果たしている役割も認識できるようになって欲しいと考える。とくに後半の原子分野では100年前後の間に発展した分野であり、我々の生活を大きく変えた。

また、物理に限ったことではないが、これからの社会を生きていくうえで、次のような能力はとても重要になってくる。したがって物理の学習においても、次のような能力を重要視するので、一人一人が意識して学習活動に向かって欲しい。

- ①体験から感じ取ったことを表現する。
  - ②事実を正確に理解し伝達する。
  - ③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。
  - ④情報を分析・評価し、論述する。
  - ⑤課題について、主体的に取り組む、自己反省し、評価改善する。
  - ⑥互いの考えを伝えあい、自らの考えや集団の考えを発展させる。
- みなさんが、物理の学習を通して、大きく成長することを強く願う。

# 化学（3年理系）

科 目	化学	単位数	4 単位	年次・コース・組	3 年 理系
使用教科書	化学（数研出版）				
副教材等	問題集 セミナー化学（第一学習社） 化学基礎・化学 重要問題集（数研出版） 図表 ニューステージ新化学図表（浜島書店）				

## 1 学習の到達目標

- ① 自然の事物・現象に関することを題材にして、基本的な概念、原理、法則を理解すること。
- ② 実験や観察を通して、科学的な自然観を身に付けること。
- ③ 物質をよく知ることにより、現代社会をより広い視野で捉え、的確な判断を下すことができるようになること。

## 2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
化学に関する基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などにおける操作や記録方法などの基本的な技能を身に付けている。	化学や化学反応に対する疑問を持ち、その解決に向けて、科学的な知識をもとに考察できる。観察・実験などを通して、得られた結果を分析して考察できる。また、これらの過程において、自らの考えを、科学的根拠をもって表現し、議論することができる。	身近な化学現象に対して関心を持ち、知識・技能をもとにそれらの理解を深め、探求しようとしている。科学の発展に伴う現代の問題に対して、自らも社会の一員である自覚を持ち、自分の考えを表現し、議論しようという姿勢である。また、自らの取り組みを振り返り、評価して改善に努めている。

## 3 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む。）

月	単元名	使用教科書項目	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価方法	評価の観点		
					a	b	c
4	第3編 第1章 非金属元素	5. 酸素・硫黄 6. 窒素・リン 7. 炭素・ケイ素	5. 酸素・硫黄の単体や化合物の性質を把握しており、硫酸の性質や接触法による製法について言及することが出来る。  6. 窒素・リンの単体や化合物の性質を把握しており、ハーバー・ボッシュ法やオストワルト法について説明できる。  7. 炭素・ケイ素の単体や化合物の性質を認識している	行動観察 課題確認 発問評価   小テスト 行動観察	○  ○  ○	○  ○  ○	○  ○  ○
5	第2章 金属元素 (I)	1. アルカリ金属元素  2. 2族元素	・単体や化合物に興味をもつ。  1. アルカリ金属元素の単体や化合物、イオンの性質を把握しており、アンモニアソーダ法について説明できる。  2. マグネシウム及びアルカリ土類金属の単体や化合物		○  ○	○  ○	○  ○

	第3章 金属元素 (II)	3. アルミニウム・スズ・鉛  1. 遷移元素の特色 2. 鉄 3. 銅	、イオンの性質を把握している。 3. アルミニウム・スズ、鉛の単体や化合物、イオンの把握している。両性元素の反応がわかる。  1. 遷移元素に興味をもち、その特徴を理解している。 2. 鉄の単体や化合物・イオンの性質を理解している。 3. 銅の単体や化合物・イオンの性質を理解している。	行動観察 提出物 発問評価	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	
6		4. 銀・金 5. 亜鉛 6. クロム・マンガン 7. 金属イオンの分離	4. 銀・金の単体や化合物・イオンの性質を理解している。 5. の単体や化合物・イオンの性質を理解している。 6. クロム・マンガン単体や化合物・イオンの性質を理解している。 7. 複数の金属イオンを含む水溶液から金属イオンを分離することができる。	小テスト	○  ○ ○ ○	○  ○ ○ ○	○  ○ ○ ○	
	前期中間考査					○	○	○
	第4編 第1章 有機化合物 の分類と分 析	1. 有機化合物の特徴と分類 2. 有機化合物の分析	1. 有機化合物に興味を持ち、全般の特徴を理解し、分類法と官能基の種類を理解している。 2. 元素分析の方法を理解し、実験結果を適切に数的に処理することができる。		○ ○	○ ○	○ ○	
7 ・ 8	第2章 脂肪族炭化 水素	1. 飽和炭化水素 2. 不飽和炭化水素	1. アルカンの種類と命名法、立体構造や性質を把握している。 2. アルケンやアルキンの種類と命名法、立体構造や性質を理解している。	提出物 行動観察 発問評価 小テスト	○  ○ ○	○  ○ ○	○  ○ ○	
	第3章 アルコール と関連化合 物	1. アルコールとエーテル 2. アルデヒドとケトン 3. カルボン酸 4. エステルと油脂	1. アルコールとエーテルの種類と命名法、性質を把握しており、特にアルコールの分類法について、それらの性質の違いと共に理解している。 2. アルデヒドとケトンの種類と命名法、性質を把握しており、その検出反応を理解している。 3. カルボン酸の種類と命名法、性質を理解している。 4. エステルの種類と命名法、性質を把握しており、油脂やセッケン、合成洗剤について認識している。		○  ○ ○ ○ ○	○  ○ ○ ○ ○	○  ○ ○ ○ ○	
9	第4章 芳香族化合 物	1. 芳香族炭化水素 2. フェノール類と芳香族カルボン酸 3. 芳香族アミンとアゾ化合物	1. 芳香族炭化水素の種類と命名法、立体構造や性質を理解している。様々な物質の合成法について認識している 2. フェノール類や芳香族カルボン酸の種類と命名法、性質を理解している。	行動観察 提出物 発問評価 単元テスト	○  ○ ○	○  ○ ○	○  ○ ○	

		4. 有機化合物の分離	3. 芳香族アミンの種類と命名法、性質、ジアゾ化、カップリングなどを理解している。 4. 有機化合物の官能基の性質を利用して、その混合物を分離する方法を把握している。		○	○	○
前期末考査					○	○	○
10	第5編 第1章 高分子化合物の性質 第2章 天然高分子化合物	1. 高分子化合物の構造と性質  1. 糖類 2. アミノ酸とタンパク質 3. 核酸	1. . 高分子化合物全般について、分類と構造を認識し、重合反応を理解している。(軟化点、熱硬化性、熱可塑性)  1. 糖類の分類、構造、性質を把握している。 2. アミノ酸、タンパク質の構造・性質について認識している。 3. 、核酸について、構造・分類・性質を把握している。	行動観察 提出物 発問評価 小テスト	○	○	○
11	第3章 合成高分子化合物	1. 合成繊維 2. 合成樹脂 3. ゴム	1. 縮合重合や付加重合によって生成される合成樹脂について認識している。 2. 合成樹脂の原料、性質について認識している。 3. 天然ゴムや合成ゴムの原料、分子構造について認識している。	行動観察 提出物 発問評価 小テスト	○	○	○
後期中間考査					○	○	○
12 1			演習（総復習）	行動観察 提出物 発問評価 小テスト	○	○	○

<学習内容についての補足説明>（授業の形態等の詳細な説明も含む。）

提出物が予定日に出揃うようにしてください。理論を確認しながら問題集にしっかり取り組めば、かなり力がつきます。また、化学基礎に比べて計算の難度が上がるので、計算過程をしっかりと書くようにしましょう。

4 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。	
知識・技能	○化学に関する基本的な概念や原理・法則などを正しく理解しているか。 ○観察・実験などにおける操作や記録方法などの基本的な技能を身に付けているか。
思考・判断・表現	○化学や自然科学に対する疑問を持ち、その解決に向けて化学的な知識をもとに考察できるか。 ○観察・実験などを通して、得られた結果を分析して考察できるか。 ○科学的に正確な情報を適切に選択できているか。 ○自らの考えを、科学的根拠をもって表現し、議論することができる。
主体的に学習に取り組む態度	○身近な化学反応に対して関心を持ち、探究しようとしているか。 ○科学倫理や環境問題など、科学の発展に伴う現代の問題に対して自分の考えをもっているか。

- |  |  |
|--|--|
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>○学習の過程で、自らの考えを表現し、議論しようという姿勢であるか。</li><li>○到達度に応じた問題演習を行っているか。</li></ul> |
|--|--|

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・ 3回の定期考査(前期中間、前期期末、後期中間)

※各考査の出題範囲は各考査直前までの学習内容を基本とします。

- ・ 長期休暇明けの課題考査(夏)
- ・ 週末課題・長期休暇に出題される課題
- ・ 学習への参加状況(授業態度、実験への取り組み等)
- ・ 小テスト(または、単元テスト)
- ・ 考査に向けての問題演習

## 5 特に強調しておきたい点(留意すべき点・担当者からのメッセージを含む。)

- 1 日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、その法則性について考える態度をもつこと。
- 2 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。
- 3 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。
- 4 暗記しなければならないことと、考えれば解ることを整理すること。

また、科学的事象に目を向け、大学で開催される各種実験実習講座に参加することも皆さんの大きな財産となります。是非積極的に参加し、科学の世界を体感してください。

**生物（3年理系）**

科目	生物			年次・コース	3年
単位数	4	使用教科書	「生物」（数研出版）	副教材・問題集等	フォトサイエンス生物図録(数研出版) リードα生物(数研出版)

**1. 科目の目標**

<p>生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う</p>
---

**2. 評価の観点の趣旨**

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<p>生物に関する基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などにおける操作や記録方法などの基本的な技能を身に付けている。</p>	<p>生物や生物現象に対する疑問を持ち、その解決に向けて、生物学的な知識をもとに考察できる。観察・実験などを通して、得られた結果を分析して考察できる。</p> <p>また、これらの過程において、自らの考えを、科学的根拠をもって表現し、議論することができる。</p>	<p>身近な生物や生物現象に対して関心を持ち、知識・技能をもとにそれらの理解を深め、探求しようとしている。生命倫理や環境問題など、科学の発展に伴う現代の問題に対して、自らも社会の一員である自覚を持ち、自分の考えを表現し、議論しようという姿勢である。</p> <p>また、自らの取り組みを振り返り、評価して改善に努めている。</p>

**3. 学習の計画**

月	単元	指導項目	予定時間	主な学習活動（指導内容）と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4	第4章 遺伝子の発現と発生	3 遺伝子の発現調節 4 発生と遺伝子発現 5 遺伝子を扱う技術	15	<p>3. 遺伝子の発現調節に関する資料に基づいて、遺伝子の発現が調節されていることを見だして理解すること。</p> <p>また、転写の調節をそれに関わるタンパク質と関連付けて理解すること</p> <p>4. 発生に関わる遺伝子の発現に関する資料に基づいて、発生の過程における分化を遺伝子発現の調節と関連付けて理解すること。</p> <p>5. 遺伝子を扱う技術について、その原理と有用性を理解すること。</p>	<p>行動観察</p> <p>実験中の行動観察</p> <p>実験レポート</p> <p>振り返りシート</p> <p>前期中間考査</p>	○	○	○

5 6	第5章 動物の 反応と 応答	1 刺激の受容 2 ニューロンとその興奮 3 情報の統合 4 刺激への反応 5 動物の行動	30	1. 2. 3. 4.  刺激の受容と反応に関する資料に基づいて、外界の刺激を受容し神経系を介して反応する仕組みを、関与する細胞の特性と関連付けて理解すること。  5. 動物の行動に関する資料に基づいて、行動を神経系の働きと関連付けて理解すること。	行動観察 実験中の行動観察 実験レポート 振り返りシート 前期中間考査	○ ○  ○ ○	○ ○  ○ ○
7 8 9	第6章 植物の 環境応 答	1 植物の生活と植物ホルモン 2 発芽の調節 3 成長の調節 4 器官の分化と花芽形成の調節 5 環境の変化に対応する応答 6 配偶子形成と受精	30	1. 2. 3. 4. 5.  植物の環境応答に関する観察、実験などを行い、植物の成長や反応に植物ホルモンが関わることを見いだして理解すること。	行動観察 実験中の行動観察 実験レポート 振り返りシート 前期末考査	○ ○  ○ ○	○ ○  ○ ○
10 11	第7章 生物群 集と生 態系	1 個体群の構造と性質 2 個体群内の個体間の関係 3 異なる種の個体群間の関係 4 生態系の物質生産と物質循環 5 生態系と人間生活	30	1. 2. 個体群内の相互作用に関する観察、実験などを行い、個体群が維持される仕組みや個体間の関係性を見いだして理解すること。  3. 個体群間の相互作用に関する資料に基づいて、生物群集が維持される仕組みや個体群間の関係性を見いだして理解すること。  4. 生態系の物質生産と物質循環に関する資料に基づいて、生態系における物質生産及びエネルギーの移動と生態系での物質循環とを関連付けて理解すること。  5. 生態系と人間生活に関する資料に基づいて、人間生活が生態系に及ぼす影響を見いだして理解すること。	行動観察 実験中の行動観察 実験レポート 振り返りシート 後期中間考査	○ ○  ○ ○	○ ○  ○ ○
12		総合問題	25	・特編（共通テスト直前演習）			
1		総合問題	10	・特編（二次試験に向けて）			
計			140				

#### 4. 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能	○生物に関する基本的な概念や原理・法則などを正しく理解しているか。 ○観察・実験などにおける操作や記録方法などの基本的な技能を身に付けているか。
思考・判断・表現	○生物や生物現象に対する疑問を持ち、その解決に向けて、生物学的な知識をもとに考察できるか。 ○観察・実験などを通して、得られた結果を分析して考察できるか。 ○科学的に正確な情報を適切に選択できているか。 ○自らの考えを、科学的根拠をもって表現し、議論することができる。
主体的に学習に取り組む態度	○身近な生物や生物現象に対して関心を持ち、探究しようとしているか。 ○生命倫理や環境問題など、科学の発展に伴う現代の問題に対して、自分の考えをもっているか。 ○学習の過程で、自らの考えを表現し、議論しようという姿勢であるか。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・年3回の定期考査(前期中間・前期期末・後期中間)
- ・実習レポート(観察・実験・演習への取り組み)・単元ごとの振り返りレポート

また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

#### 5. 特に強調しておきたい点

中学理科または生物基礎で学んだことを生かしながら、より詳細な生物現象の仕組みを学んでいきます。生物の分野は、科学技術の発展に伴って新しい事が日々明らかになり、また様々なものに応用されています。その根幹となる基本的な概念や原理・法則などを授業で理解し、身近な生物や生物現象に疑問を持って、楽しんで日々学んでいきましょう。1回1回の授業を大切にして、授業後に要点を自分でまとめていくと良いと思います。

体 育

科 目	体育			年次・コース	3年
単 位 数	2	使用教科書	高等学校保健体育 (第一学習社)	副教材・問題集等	保健体育ノート (第一学習社)

**1. 科目の目標**

- 1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。
- 2) 生涯にわたって、運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- 3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

**2. 評価の観点の趣旨**

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって、運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。

**3. 学習の計画**

月	単元名	指 導 項 目	予定時間	主な学習活動（指導内容）と評価のポイント	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4月	体づくり運動	オリエンテーション 体ほぐしの運動 体力を高める運動	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育を学ぶ意味を理解し、学習意欲を高める。</li> <li>・身体の様々な部位を動かすことで心地よさや楽しさを味わう。</li> <li>・仲間との活動を通して交流を深める。</li> <li>・自ら身体活動を創意工夫することにより、自己に適した実践力を身に付ける。</li> </ul>				
5・6・7月	体育理論 球技Ⅰ	(男子) テニス  (女子) バスケットボール	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種目の特性を理解し個人やチームの能力を把握する。</li> <li>・ゲームなどを通して、その種目の楽しさを味わいながら個人やチームの課題を設定し、その解決に向けての練習を工夫する。</li> <li>・個人やチームの能力に応じて作戦を立て、持っている技能を最大限生かしてゲームを行う。</li> <li>・ゲームの企画や運営・審判を行う。</li> </ul>	行動観察 スキルテスト ゲーム評価 自己評価表	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○
8・9月	体育理論 球技Ⅱ	(男子) バスケットボール  (女子) ソフトボール	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種目の特性を理解し個人やチームの能力を把握する。</li> <li>・ゲームなどを通して、その種目の楽しさを味わいながら個人やチームの課題を設定し、その解決に向けての練習を工夫する。</li> <li>・個人やチームの能力に応じて作戦を立て、持っている技能を最大限生かしてゲームを行う。</li> <li>・ゲームの企画や運営・審判を行う。</li> </ul>	行動観察 スキルテスト ゲーム評価 自己評価表	○ ○	○ ○ ○	○ ○
10・11月	体育理論 球技Ⅲ	(男子) サッカー  (女子) バレーボール	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種目の特性を理解し個人やチームの能力を把握する。</li> <li>・ゲームなどを通して、その種目の楽しさを味わいながら個人やチームの課題を設定し、その解決に向けての練習を工夫する。</li> <li>・個人やチームの能力に応じて作戦を立て、持っている技能を最大限生かしてゲームを行う。</li> <li>・ゲームの企画や運営・審判を行う。</li> </ul>	行動観察 スキルテスト ゲーム評価 自己評価表	○ ○	○ ○ ○	○ ○
12月	体育理論 球技選択Ⅰ	サッカー バスケットボール バレーボール バドミントン 卓球	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種目の特性を理解し、個人やチームの能力を把握する。</li> <li>・ゲームなどを通して、その種目の楽しさを味わいながら個人やチームの課題を設定し、その解決に向けての練習を工夫する。</li> <li>・個人やチームの能力に応じて作戦を立て、持っている技能を最大限生かしてゲームを行う。</li> <li>・ゲームの企画や運営・審判を行う。</li> </ul>	行動観察 スキルテスト ゲーム評価 自己評価表	○ ○	○ ○ ○	○ ○
1・2月	球技選択Ⅱ	バスケットボール 卓球 バドミントン バレーボール	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種目の特性を理解し、個人やチームの能力を把握する。</li> <li>・ゲームなどを通して、その種目の楽しさを味わいながら個人やチームの課題を設定し、その解決に向けての練習を工夫する。</li> <li>・個人やチームの能力に応じて作戦を立て、持っている技能を最大限生かしてゲームを行う。</li> <li>・ゲームの企画や運営・審判を行う。</li> </ul>	行動観察 スキルテスト ゲーム評価 自己評価表	○ ○	○ ○ ○	○ ○
年間授業時間数			70					

<学習内容についての補足説明> (授業の形態等の詳細な説明も含む。)

\*服装について

- ・指定された体操服上下及び体育館シューズを使用すること。
- ・髪の毛については、肩より長い場合はしばること。

\*見学について

- ・体調不良などの理由で授業を見学する場合は、事前に授業担当者に申し出ること

\*体育当番について

- ・事前に授業担当者へ授業内容の確認へ行くこと、全員への連絡を行うこと。
- ・列の前で整列・挨拶・準備体操の指示、授業後の片付けを行う。

\*その他

- ・所定の場所で更衣をし、始業時間を厳守すること。
- ・器具や用具については、毎時間安全確認を行う。

**4. 評価の観点・方法 (及び年間の評定)**

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の意義や必要性及び運動の特性を理解し、知識を身に付けている。</li> <li>・規則やルール及び審判法を理解して試合(ゲーム)に臨んでいる。</li> <li>・運動の特性及び事故やグループ(チーム)の能力に応じて技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに体力を高めるための運動を合理的に実践できる。また、課題の解決、記録の向上、チーム力の向上を目指し技能を高めている</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の特性及び自己やグループ(チーム)の能力に応じて課題の解決を目指し、運動の合理的な行い方や計画的な活動の仕方を考え工夫している。</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように、自ら進んで計画的に運動しようとしている。</li> <li>・厚生、協力、責任などの態度を身に付け、安全に配慮している。</li> </ul>

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・行動観察(授業態度)
- ・記録会
- ・スキルテスト、ゲーム評価
- ・自己評価表、相互評価表

また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

**5. 特に強調しておきたい点**

体育の授業では誰もが運動の楽しさを味わうことができます。そのためには、自ら進んで運動しようという意欲がとても大切です。ただ、体を動かすだけでなく、自己や仲間と課題を見つけ、その解決に努力するとともに、運動の特性を理解して運動する習慣を身に付けてください。その積み重ねが、体力の向上と運動技能の向上につながり、一層の楽しさへと発展します。さらに、それが生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する礎となるのです。

**英語コミュニケーションⅢ**

科 目	英語コミュニケーションⅢ		年次・コース	3年次
単 位 数	4	使用教科書	Heartening English Communication Ⅲ (桐原書店)	
副教材・問題集等	Change the World Standard (いいずな書店)、 共通テスト対策実力養成重要問題集英語リスニング (進研学参)、システム英単語 (駿台文庫)			

**1. 科目の目標**

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。

(1) 聞くこと

- ア 日常的话题について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。
- イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

(2) 読むこと

- ア 日常的话题について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする。
- イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

(3) 話すこと [やり取り]

- ア 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させることができるようにする。
- イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、課題の解決策などを論理的に詳しく話して伝え合うことができるようにする。

(4) 話すこと [発表]

- ア 日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。
- イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。

(5) 書くこと

- ア 日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。
- イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。

**2. 評価の観点の趣旨**

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その知識を実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できるか。	英語で情報や考えなどを的確に理解し、適切に表現したり伝えたりしているか。	英語の背景にある文化を理解し、主体的、自律的にコミュニケーションを図ろうとしているか。

**3. 学習の計画**

月	単元	指 導 項 目	予定時間	主な学習活動 (指導内容) と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4		授業について	1	学習の意味を理解し、学習意欲を高める。				

月	Lesson 1	What Makes Up Your Identity?	4	・アイデンティティについて扱い、個人の価値を尊重し、自主及び自律の精神を養う。	活動の観察 小テスト ワークシート 課題・レポート 振り返りシート	○	○	○
	Lesson 2	Predicting Future Technology	4	・未来予想について扱い、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。				
	Lesson 3	The Science of Sleep	4	・睡眠について扱い、豊かな情操を培うとともに、健やかな身体を養うことにつなげる。				
	Lesson 4	Diversity and Inclusion	4	・多様性について扱い、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う。				
5月	Lesson 5	Protein Crisis	4	・将来のタンパク源について扱い、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う。	活動の観察 小テスト ワークシート 課題・レポート 振り返りシート	○	○	○
	Lesson 6	Different Types of Happiness	4	・幸福論について扱い、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度などを養う。				
	Lesson 7	Pros and Cons of Utilizing AI	4	・AIについて扱い、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。				
	Lesson 8	Kintsugi: The Art of Embracing the Imperfect	4	・伝統工芸品について扱い、文化を尊重し、それを育んできた環境を大切にすることを養う。				
6月	前期中間考査・パフォーマンステスト		2			○	○	○
	Lesson 9	Getting Your Message Across	4	・人前での話し方について扱い、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う。	活動の観察 小テスト ワークシート 課題・レポート 振り返りシート	○	○	○
	Lesson 10	Medical Ethics During a Pandemic	4	・医療倫理について扱い、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画する態度を養う。				
Change the World	Unit 1 Unit 2	4 4	・歴史 ・社会問題					
7月	Change the World	Unit 3	4	・環境	活動の観察 小テスト ワークブック 課題・レポート 振り返りシート	○	○	○
		Unit 4	4	・言語				
		Unit 5	4	・動物				
		Unit 6	4	・社会				
8・9月	Change the World	Unit 7	4	・健康	活動の観察 小テスト ワークブック 課題・レポート 振り返りシート	○	○	○
		Unit 8	4	・健康				
		Unit 9	4	・健康				
		Unit 10	4	・風俗				
前期期末考査・パフォーマンステスト			2			○	○	○
10月	Change the World	Unit 11	4	・風俗	活動の観察 小テスト ワークブック 課題・レポート 振り返りシート	○	○	○
		Unit 12	4	・文化				
		Unit 13	4	・風俗				
		Unit 14	4	・環境				
11月	Change the World	Unit 15	3	・社会問題	活動の観察 小テスト ワークブック 課題・レポート 振り返りシート	○	○	○
		Unit 16	3	・教育				
		Unit 17	3	・産業				
		Unit 18	3	・社会				
			3	・家族				
			3	・歴史				
後期中間考査・パフォーマンステスト			2			○	○	○
12月～	* 後期中間考査以降は特編授業のため開講されない。							

#### <学習内容についての補足説明> (授業の形態等の詳細な説明も含む。)

- ・授業は基本的には英語で行われます。
- ・ペアで自分の考えや意見を伝え合う活動が定期的に行われます。

#### 4. 評価の観点・方法 (及び年間の評定)

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その知識を実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できるか。
思考・判断・表現	英語で情報や考えなどを的確に理解し、適切に表現したり伝えたりしているか。
主体的に学習に取り組む態度	英語の背景にある文化を理解し、主体的、自律的にコミュニケーションを図ろうとしているか。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・年3回の定期考査
- ・単語を中心とした小テスト
- ・発表活動（ディスカッション、プレゼンテーション）では、①話し方（アイコンタクト・声の大きさ）、②内容（トピックとの関連性）、③英語（正しい発音と抑揚・語彙の使用状況）を評価します。
- ・ワークシート
- ・学習活動への参加の状況（ペアワーク、グループワークの取組等）
- ・振り返りシート（自己評価）

また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

## 5. 特に強調しておきたい点

英文を読んだり、書いたりする際に、今まで学習した語彙、文法、構文の知識が非常に重要になってきます。定期的に復習し、適切に使いこなせるようにしていきましょう。また、リスニングの力は一朝一夕では身につけません。日々、短時間でも英語を聞く時間を設けていくようにしましょう。

速く、正確に英文の内容を読み取るためにも、様々な分野の英文に慣れておく必要があります。授業で扱う英文の理解に努め、どのようなジャンルにも対応できるよう、背景知識などを蓄えていくようにしましょう。

科目	論理・表現Ⅲ		年次・コース	3年次・理系
単位数	2	使用教科書	CROWN Logic and Expression Ⅲ (三省堂)	
副教材・問題集等	新・英語の構文150 解釈&表現 活用ワークブック (美誠社)		UPGRADE 英文法・語法問題 (数研出版)	
	新・英語の構文150 (美誠社)		桐原AIエッセイライティングLite10回 (桐原書店)	

1. 科目の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。

(1) 話すこと [やり取り]  
 日常的话题や社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを論理の展開や構成を工夫しながら詳しく話して伝え合うことができるようにする。

(2) 話すこと [発表]  
 日常的话题や社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを論理の展開や構成を工夫しながら詳しく話して伝えることができるようにする。

(3) 書くこと  
 日常的话题や社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを論理の展開や構成を工夫しながら複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解しているか。	英語で情報や考えなどを的確に理解し、適切に伝えているか。	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているか。

3. 学習の計画

月	単元	指導項目	予定時間	主な学習活動(指導内容)と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4月		授業について	1	学習の意味を理解し、学習意欲を高める。				
	Lesson 1	Global Language	5	友人からのメールに自分の考えを述べる 時制・助動詞・受動態/賛成・反対の表現	活動の観察 ワークシート エッセイライティング	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
	Lesson 2	Millennials' Consumption Trends	5	新聞に掲載された意見に対して自分の主張を理由と共に述べる。 不定詞・動名詞・分詞/例証の表現	活動の観察 ワークシート エッセイライティング	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
5月	Lesson 3	Space Odyssey	5	宇宙旅行は必要であるという意見について資料を読み取り、自分の意見を書く。 仮定法・接続詞/時間的順序を表す表現	活動の観察 ワークシート エッセイライティング	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
	前期中間考査・パフォーマンステスト		2			○	○	○
6月	Lesson 4	Art or Graffiti?	5	クローン文化財の技術とその使用目的に関する説明文を読んで、感じたことをまとめる。 比較・関係詞/確信/提案・勧誘/伝聞の表現	活動の観察 ワークシート エッセイライティング	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
	7月	Lesson 5	Media and Information Literacy	5	メディアリテラシーとは何であるか、なぜ重要であるか、意見交換サイトに寄せられた以下の意見を読んで、自分の考えをまとめる。 疑問詞/忠告・義務/必要/譲歩の表現	活動の観察 ワークシート エッセイライティング	○ ○ ○	○ ○ ○
8・9月		Lesson 6	Are You a Great Creative Thinker?	5	二人の起業家のエピソードを読み、相違点をまとめて発表する。 否定/比較・対照を表す表現	活動の観察 ワークシート エッセイライティング	○ ○ ○	○ ○ ○
	前期期末考査・パフォーマンステスト		2			○	○	○

10月	Lesson 7	Green Wisdom	5	エコリズムについて、メリットとデメリットのどちらが多いか、資料を読み取り自分の意見をまとめる。 名詞・冠詞／統計資料を説明する表現	活動の観察 ワークシート エッセイライティング	○	○	○
11月	Lesson8	What Is Happiness?	5	SDGsを達成するために解決すべき課題の中で、優先すべき目標はどんなことか自分の意見をまとめる。 特殊構文／因果関係を表す表現	活動の観察 ワークシート エッセイライティング	○	○	○
		後期中間考査・パフォーマンステスト	2			○	○	○
後期中間考査以降は特別編成授業のため開講されない。								

<学習内容についての補足説明> (授業の形態等の詳細な説明も含む。)

- ・授業は基本的には英語で行われます。
- ・ペアで自分の考えや意見を伝え合う活動が定期的に行われます。

#### 4. 評価の観点・方法 (及び年間の評定)

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解しているか。
思考・判断・表現	英語で情報や考えなどを的確に理解し、適切に伝えているか。
主体的に学習に取り組む態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているか。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・年3回の定期考査、パフォーマンステスト
- ・単元ごとの確認小テスト
- ・発表〔スピーチ、ディベート、ディスカッション、プレゼンテーション〕では、次の観点で評価します。
  - ①アイコンタクト、②声の大きさ、③正しい発音と抑揚、④語彙の使用状況
- ・ワークシート
- ・エッセイライティング (①分量、②内容 (論理性、具体性)、③文法)
- ・学習活動への参加の状況 (ペアワーク、グループワークの取り組み等)

また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

#### 5. 特に強調しておきたい点

英語は、毎日学習することが大切です。この計画を参考にして、進んで学習する習慣を身に付けましょう。授業は原則として英語で行われます。知らない単語や表現が聞こえてきても、ビジュアルエイドやジェスチャーなどを手がかりにして理解に努めましょう。1年間、英語漬けになることで、リスニング力ばかりでなく、語彙力や英語で表現する能力を確実に伸ばすことができます。ただ、どうしても推測できない単語や表現は辞書を使って確認する作業を怠らないようにしましょう。英語を上達させるには、学んだ表現を実際にできるだけ多く使ってみることが必要です。学習した表現はスピーキングやライティング活動で積極的に用いるようにしましょう。

令和8年度 教育 課程 表

岐阜県立斐太高等学校 全日制課程 単位制 普通科(普通)

1年次

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	備考
現代の国語 (2)		言語文化 (2)			歴史総合 (2)		公共 (2)		数学Ⅰ (3→2)		数学Ⅱ (4)	数学A (2)		化学基礎 (2)		生物基礎 (2)		体育 (7~8)		保健 (2)	音楽Ⅰ (2)	美術Ⅰ (2)	英語コミュニケーションⅠ (3)			論理・表現Ⅰ (2)		家庭基礎 (2)		* (3~6 →2)	HR		

※ 期間履修

\* :総合的な探究の時間

2年次文系

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	備考
論理国語 (4)		古典探究 (4)			地理総合 (2)		日本史探究 (3)		世界史探究 (3)		数学Ⅱ (4)		数学B (2)	数学C (2)	地学基礎 (2)		体育 (7~8)		保健 (2)	英語コミュニケーションⅡ (4)			論理・表現Ⅱ (2)		情報Ⅰ (2)		* (3~6 →2)	HR					

※ 期間履修

\* :総合的な探究の時間

2年次理系

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	備考
論理国語 (4)		古典探究 (4)			地理総合 (2)		数学Ⅱ (4)		数学Ⅲ (3)	数学B (2)	数学C (2)	物理基礎 (2)		物理 (4)	化学 (4)		体育 (7~8)		保健 (2)	英語コミュニケーションⅡ (4)			論理・表現Ⅱ (2)		情報Ⅰ (2)		* (3~6 →2)	HR					

※ 期間履修

※ 期間履修

※ 期間履修

\* :総合的な探究の時間

3年次文系

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	備考
論理国語 (4)		国語特講(学) 音楽特講B(学) 美術特講B(学) 書道特講B(学) 生物探究(学)			古典探究 (4)		日本史探究 (3)		日本史特論 (学)	日本史探究(3)		地理探究(3)	日本史探究(3)	世界史探究(3)	世界史特論 (学)	倫理(2) 政治経済(2)	数学C (2)	地歴特講(地理)(学) 地歴特講(日本史)(学) 地歴特講(世界史)(学)	化学基礎探究 (学)	生物基礎探究 (学)	体育 (7~8)	英語コミュニケーションⅢ (4)	論理・表現Ⅲ (2)		HR								

生物探究(学)

3年次理系

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	備考
論理国語 (4)		古典探究 (4)			地理探究 (3)		地理特論 (学)	日本史探究 (3)	日本史特論 (学)	数学Ⅲ (3)		理系数学特講A (学)	理系数学特講B (学)	数学C (2)		物理 (4)		生物 (4)		化学 (4)			体育 (7~8)		英語コミュニケーションⅢ (4)		論理・表現Ⅲ (2)		HR				

※ 期間履修

整理番号